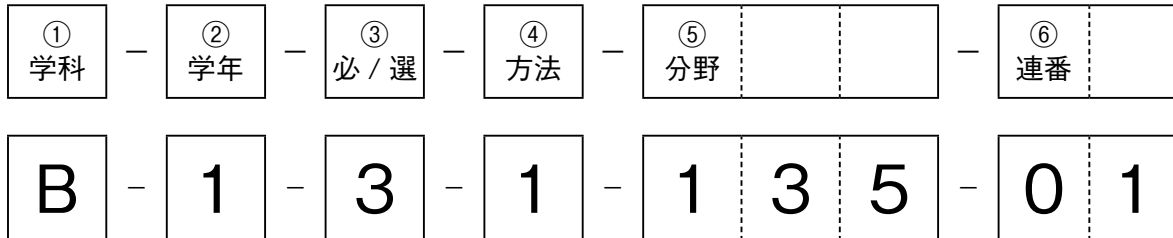


# 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を表し、カリキュラムの体系的性を明示する仕組みで学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。また、分野の3桁は全学共通のコードであるため他学部や他学科の科目を履修する際に、学びたい分野を探し体系的に履修するための1つのツールとして活用することができます。

## 1 科目ナンバリングの構成について

本学の科目ナンバリングは、以下の英数字9桁にて表します。



(例) 「文学Ⅰ」の科目ナンバー **B131 - 135 - 01**

①教養教育科目の ⑤文学一般関連分野の科目で ⑥1番目、授業は ②大学1年次レベル・③選択科目・④講義形式で授業を行う。

### 【ナンバリングの項目とコード】

#### ① 科目の設置学科(英字1文字)

学科学籍番号に表示のアルファベットが各学科の記号

R : 宗教文化学科	H : 歴史学科	K : 英語英米文化学科
N : 日本文化学科	V : グローバル英語学科	C : 商学科
M : 経営学科	E : 経済学科	J : 法律学科
W : 現代社会法学科	G : 総合政策学科	P : 心理学科
Z : 健康科学科	X : 健康栄養学科	A : 医療薬学科
D : 歯学科	B : 教養教育科目	L : 資格課程科目
Q : 自由選択科目		

#### ② 科目の難易度(数字1文字)

0 : 大学補習レベル	1 : 大学1年次レベル	2 : 大学2年次レベル
3 : 大学3年次レベル	4 : 大学4年次レベル	
5 : 大学5年次レベル(薬・歯)	6 : 大学6年次レベル(薬・歯)	

#### ③ 必修・選択の別(数字1文字)

1 : 必修科目	2 : 選択必修科目	3 : 選択科目
----------	------------	----------

#### ④ 授業の方法(数字1文字)

1 : 講義	2 : 演習	3 : 実験・実習	4 : 外国語	5 : 実技
6 : 卒業論文	7 : 臨床実習	8 : 認定	9 : その他	

#### ⑤ 科目分野(英数字3文字)

「科目ナンバリング分野一覧」を参照

#### ⑥ 科目認識番号(英数字2文字)

科目分野の下に割り当て、学部学科独自の方法にて表示します。

# 科目ナンバリング

## 2 科目ナンバリング分野一覧

コード	分野	コード	分野	コード	分野
111	哲学、論理学および倫理学関連	272	教育社会学関連	621	生命、健康および医療情報学関連
112	中国哲学、印度哲学および仏教学関連	276	特別支援教育関連	622	ウェブ情報学およびサービス情報学関連
113	宗教学関連	277	教育工学関連	634	環境影響評価関連
114	思想史関連	281	社会心理学関連	644	自然共生システム関連
115	美学および芸術論関連	282	教育心理学関連	646	環境政策および環境配慮型社会関連
116	美術史関連	283	臨床心理学関連	737	プランニング関連
117	芸術実践論関連	284	実験心理学関連	738	社会システム工学関連
118	科学社会学および科学技術史関連	285	心理学基礎関連	772	分析化学関連
131	日本文学関連	286	心理学展開関連	801	地域研究関連
132	中国文学関連	287	公認心理師および認定心理士関連	802	アメリカ領域関連
133	英文学および英語圏文学関連	323	数学基礎関連	803	イギリス領域関連
135	文学一般関連	388	食品科学関連	804	英語圏領域関連
136	言語学関連	411	食料農業経済関連	811	観光学関連
137	日本語学関連	420	自然科学基礎関連	821	ジェンダー関連
138	英語学関連	423	動物生命科学関連	841	演習(基礎)関連
139	日本語教育関連	445	動物生理化学、生理学および行動学関連	842	演習(専門)関連
140	外国語教育関連	451	遺伝学関連	843	演習(外書)関連
141	英語演習関連	454	生態学および環境学関連	845	卒業論文関連
142	通訳・翻訳関連	471	薬系化学および創薬科学関連	851	学外実習関連
143	ESP関連	474	薬理学関連	852	学外研修関連
144	英語系資格関連	481	解剖学関連	861	キャリア教育関連
145	ドイツ語関連	482	生理学関連	901	デザイン学関連
146	フランス語関連	492	人体病理学関連	902	図書館情報学および人文社会情報学関連
147	中国語関連	495	細菌学関連		
148	韓国語関連	503	医学一般関連		
161	史学一般関連	511	基盤脳科学関連		
162	日本史関連	512	認知脳科学関連		
163	アジア史およびアフリカ史関連	513	病態神経科学関連		
164	イスラム圏史関連	521	内科学一般関連		
165	ヨーロッパ史およびアメリカ史関連	522	神経内科学関連		
166	考古学関連	523	精神神経科学関連		
167	文化財科学関連	525	胎児医学および小児成育学関連		
181	地理学関連	531	消化器内科学関連		
182	人文地理学関連	556	救急医学関連		
183	文化人類学および民俗学関連	565	耳鼻咽喉科学関連		
211	基礎法学関連	567	形成外科学関連		
212	公法学関連	571	常態系口腔科学関連		
213	国際法学関連	576	外科系歯学関連		
214	社会法学関連	578	社会系歯学関連		
215	刑事法学関連	582	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含む		
216	民事法学関連	583	衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含まない		
217	新領域法学関連	585	基礎看護学関連		
221	政策学関連	586	臨床看護学関連		
222	政治学関連	587	生涯発達看護学関連		
223	国際関係論関連	591	リハビリテーション科学関連		
231	理論経済学関連	592	スポーツ科学関連		
232	経済学説および経済思想関連	593	体育および身体教育学関連		
233	経済統計関連	594	栄養学および健康科学関連		
234	経済政策関連	601	情報学基礎論関連		
235	公共経済および労働経済関連	602	数理情報学関連		
236	金融およびファイナンス関連	603	統計科学関連		
237	経済史関連	605	ソフトウェア関連		
238	経営学関連	606	情報ネットワーク関連		
239	商学関連	607	情報セキュリティ関連		
240	会計学関連	608	データベース関連		
261	社会学関連	611	知覚情報処理関連		
262	社会福祉学関連	612	ヒューマンインタフェースおよびインタラクション関連		
271	教育学関連	613	知能情報学関連		

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ  
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

# 【健康科学科】

# カリキュラムマップ

カリキュラムマップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表のことで、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するかを示しています。

このカリキュラムマップにより、学修内容の順次性や科目間の関連性が一目でわかり、自らの学修内容を容易に把握することができます。

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー（DP）				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
宗教学Ⅰ B111-113-01	「建学の精神」を学び、また、多様な宗教の見方・捉え方(分類法など)や、世界各地の宗教の概要・歴史を学習する。	宗教を客観的に学ぶことで高い倫理性を持った人間性を獲得し、また、世界各地の宗教を学ぶことで多様な文化・価値観を理解する。				◎
宗教学Ⅱ B111-113-02	インドで生まれた仏教・禅の教え(世界観・価値観)の基本を学び、世界各地へ伝わった歴史を学ぶ。	仏教の智慧を学ぶことで、課題発見力や問題解決力を養い、また、慈悲を学ぶことで、他者との協調性を養い、価値観の多様化した現代においても力強く生きられる柔軟性を得る。				◎
心理学Ⅰ B131-285-01	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。				◎
心理学Ⅱ B131-285-02	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。				◎
哲学Ⅰ B131-111-01	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。				◎
哲学Ⅱ B131-111-02	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。				◎
論理学Ⅰ B131-111-11	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。				◎
論理学Ⅱ B131-111-12	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。				◎
文学Ⅰ B131-135-01	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。				◎
文学Ⅱ B131-135-02	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。				◎
美術Ⅰ B-131-116-01	美術の歴史、人物、環境等を通し現代社会の美術の見方、考え方を学び美術の基本姿勢を修得させていく。	美術の基本的な姿勢や見方を修得する。個々の美術観を築き表現法を見出ししていく。				◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し、決断するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
美術Ⅱ B131-116-02	美術の基本理念に基づき多様に広がる美術事情を探り自己の美意識を広げ表現力を高めていく。	美術の理念を深め自己の造形に表現力を加え、美術の基礎の確立を計る。				◎
法学Ⅰ B131-211-01	法学全般の基礎、及び憲法の基礎について講義する。	法学全般に通じる基本原理、及び憲法の基本原理を理解する。		○		◎
法学Ⅱ B131-211-02	民法の基礎について講義する。	民法の基本原理を理解する。		○		◎
政治学Ⅰ B131-222-01	民主主義・自由主義などの原理、執政制度・選挙制度などの政治制度を学ぶ。	政治の基本的原理や制度を理解する。				◎
政治学Ⅱ B131-222-02	日米英独仏など各国の政治を比較して学ぶ。国際政治の仕組みについて学ぶ。	各国政治および国際政治の基本を理解する。				◎
経済学Ⅰ B131-231-01	経済学の基礎概念をミクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	ミクロ経済学の基本的な概念を理解し、ミクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。				◎
経済学Ⅱ B131-231-02	経済学の基礎概念をマクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	マクロ経済学の基本的な概念を理解し、マクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。				◎
社会学Ⅰ B131-261-01	本講義は、具体例を挙げながら、社会学が考えてきたこと、明らかにしてきたことを確認し、社会学の概念や方法を理解していきます。また、それらの知識を用いて、現代社会の諸課題についても考えます。	社会学の「問い」、「概念」、「方法」を理解すること。そして、社会学的思考を用いて、自ら現代社会の諸課題の様相について説明できるようになること。		○		◎
社会学Ⅱ B131-261-02	本講義は、社会階層、文化集団、コミュニティ等を取り上げ、社会学的な視点からそれらの集団の特徴を理解していきます。そして各集団と現代社会の諸課題の関連についても考えていきます。	各集団の特徴を理解すること。そして、現代社会の諸課題が各集団のなかでなぜ発生し、どのように顕在化していくのかについて説明できるようになること。		○		◎
教育学Ⅰ B131-271-01	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を利活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			◎
教育学Ⅱ B131-271-02	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を利活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	○			◎
歴史学Ⅰ B131-161-01	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。				◎
歴史学Ⅱ B131-161-02	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。				◎
地理学Ⅰ B131-181-01	地理学の基礎的な知識を、国内外の社会の中にみられる具体的な実例を挙げながら紹介する。社会や自然を構成する多様な要素を取り上げ、それらの相互関係や、分布の差異を示すことで、地理学的なものとの考え方をも身につける。	社会の中にみられる諸現象を地理学的な観点から説明することができる。世界あるいは日本の中にみられる多様性と地域性について理解することができる。				◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し、解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
地理学Ⅱ B131-181-02	地理学が扱う多様な課題の中から特定のものを取り上げ、その問題を関連する事象とともに追究する。このことによって、取り上げる課題についての理解を深めるとともに、地理学的なものとの見え方についても深化させる。	取り上げる地理学的課題についての基礎的な知識事項を述べるができる。取り上げる地理学的課題を通じて、世界・日本の社会・自然のあり方について、論理的な考察が行えるようになる。				◎
数学Ⅰ B131-323-01	数学の問題を解くことを通して、数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。				◎
数学Ⅱ B131-323-02	数学の問題を解くことを通して、より進んだ数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な、より進んだ数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。				◎
統計学Ⅰ B131-603-01	統計の問題を解くことを通して、統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎
統計学Ⅱ B131-603-02	統計の問題を解くことを通して、より進んだ統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ、より進んだ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				◎
物理学Ⅰ B131-420-01	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。				◎
物理学Ⅱ B131-420-02	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。				◎
化学Ⅰ B131-420-11	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。				◎
化学Ⅱ B131-420-12	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。				◎
生物学Ⅰ B131-420-21	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				◎
生物学Ⅱ B131-420-22	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。				◎
情報科学Ⅰ B131-601-01	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークの知識を習得する。	社会生活に役立つコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。	○			◎
情報科学Ⅱ B131-601-02	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークのより進んだ知識を習得する。	社会生活に役立つより進んだコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎
情報科学Ⅲ B131-601-03	コンピュータを通して、データサイエンスに関してリテラシーレベルよりも一歩進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、リテラシーレベルよりも一歩進んだ知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎
情報科学Ⅳ B131-601-04	コンピュータを通して、データサイエンスに関してより進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、より進んだ知識と、その倫理的問題点の習得を到達目標とする。				◎
仏教と現代社会Ⅰ B231-112-01	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。				◎
仏教と現代社会Ⅱ B231-112-02	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。				◎
禅と人間Ⅰ B231-112-11	禅の概要および禅宗の特徴を概説し、禅語(公案)を通じて禅の思想を解説するとともに、坐禅の実習によって禅の修行を体感する。	坐禅や公案の学習などの禅の修行生活の重要な要素を通じて、禅の本質を理解する。				◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
禅と人間Ⅱ B231-112-12	中国および日本における禅宗の歴史や思想を概説し、禅の影響のもと成立した茶道・絵画・建築・陶磁器・書などの日本独自文化を解説する。	禅と日本文化との関係を具体的に理解し、禅によって培われた日本独自の美意識や感性を体得する。				◎
生命に関する諸問題Ⅰ B231-118-01	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	○			◎
生命に関する諸問題Ⅱ B231-118-02	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	○			◎
人間行動の理解Ⅰ B231-285-01	心理学で扱う理論や事象は実験や調査で得られたデータに基づいている。本講義では、実際に実験を行い、仮説検証の考え方からデータの収集方法、結果の解釈に至るまで、心理学の基本的な方法論について理解を深める。	心の仕組みや働きを明らかにするための様々な方法論を理解したうえで、科学的な手続きと正確なデータ収集の重要性を認識し、さらにそれらをまとめて論理的な報告書の作成ができるようになること。			○	◎
人間行動の理解Ⅱ B231-285-02	フロイトの精神分析の口語版といわれる「交流分析」の理論と実践について学ぶ。交流分析は、パーソナリティ理論やコミュニケーション理論を含む心理療法のひとつであり、自己洞察を繰り返すことで、より良い人間関係と自己の生き方を築くことを目指す。	自己理解と他者理解を深め、よりよいコミュニケーションと自己の問題点の把握と改善へつなげること。			○	◎
人間の尊厳と平等Ⅰ B231-261-01	本授業では、これまでに人間社会が形成してきた人権について、様々な歴史的事例や条文などの学びを通して、人権の基礎を習得する。	人権の成立過程や現代における課題を学び、一人一人の人間性を尊重し、他者と協調できるようになる。また、差別について批判的精神を養う。	○	○		◎
人間の尊厳と平等Ⅱ B231-261-02	本授業では、社会福祉の成立過程を学びながら、「福祉国家」や「社会福祉事業」への理解を深め、社会福祉の基礎を習得する。	社会福祉の学びを通して、一人一人の人間性を尊重し、多様な価値観を理解できるようになる。そして、自ら社会貢献が積極的に可能になることを目指す。				◎
日本の文化と社会Ⅰ B231-162-01	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。				◎
日本の文化と社会Ⅱ B231-162-02	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。				◎
アジアの文化と社会Ⅰ B231-163-01	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○			◎
アジアの文化と社会Ⅱ B231-163-02	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	○			◎
ヨーロッパの文化と社会Ⅰ B231-165-01	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。				◎
ヨーロッパの文化と社会Ⅱ B231-165-02	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。				◎
英語圏の文化と社会Ⅰ B231-804-01	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解できる。				◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
英語圏の文化と社会Ⅱ B231-804-02	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解して説明できる。				○
人間と環境Ⅰ B231-646-01	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○
人間と環境Ⅱ B231-646-02	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。		○		○
情報と社会Ⅰ B231-622-01	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。				○
情報と社会Ⅱ B231-622-02	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。				○
産業と科学Ⅰ B231-118-01	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○
産業と科学Ⅱ B231-118-02	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。				○
ソフトウェア概論Ⅰ B231-605-01	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、コンピュータの多様な使い方を習得する。	コンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。				○
ソフトウェア概論Ⅱ B231-605-02	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、より進んだコンピュータの多様な使い方を習得する。	より進んだコンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。				○
英語Ⅰa B114-141-01	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	基礎的な英語表現の聞き取りと基礎的な会話表現ができる。			○	○
英語Ⅱa B114-141-02	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	少し発展的な英語表現の聞き取りと会話表現ができる。			○	○
英語Ⅰb B114-141-03	英語の読解を中心とした総合演習	基礎的な英文を読んで内容が理解できる。				○
英語Ⅱb B114-141-04	英語の読解を中心とした総合演習	少し発展的な英文を読んで内容が理解できる。				○
英語Ⅰc B114-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。				○
英語Ⅱc B114-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。				○
日本語Ⅰa B114-139-01	高度な文法力や読解力を身につけることを目的に論理的な文章を読む。	論理的な文章が読めるようになる。また、教材を通して日本社会への理解を深めることができる。				○
日本語Ⅱa B114-139-02	読解力を向上させるために、論理的な文章だけでなく、エッセイなども取り上げて読む。	様々なタイプの文章を、一人で読めるようになる。また、内容に関して意見や感想をまとめることができる。				○
日本語Ⅰb B114-139-03	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	留学生活に必要な聴解力・会話力を身につけ、わかりやすい発表ができるようになる。			○	○
日本語Ⅱb B114-139-04	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	日本社会で起きている話題について聴き取れ、資料を基に論理的に意見が述べられるようになる。			○	○
日本語Ⅰc B114-139-05	論理的な文章をわかりやすく書くための基礎的な技法を学ぶ。	事実と自分の考えとを書き分ける力、資料に基づいて自分の考えを書き進める力を身につけることができる。				○
日本語Ⅱc B114-139-06	関心のあるテーマについて問題を見出し、資料を用いてその答えをレポートとしてまとめる。	レポートを書くことを通して、読み・書きの高度な日本語力を身につけることができる。				○
英会話Ⅰ B134-141-11	外国人教員による英会話演習	簡単な英会話で自己表現ができる。			○	○

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解 決するために考え 行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
英会話Ⅱ B134-141-12	外国人教員による英会話演習	少し発展的な内容の英会話で自己表現ができる。			○	◎
英会話Ⅲ B234-141-21	外国人教員による発展的英会話演習	日常的な内容の英会話で自己表現ができる。			○	◎
英会話Ⅳ B234-141-22	外国人教員による発展的英会話演習	発展的な様々な内容の英会話で自己表現ができる。			○	◎
メディア英語Ⅰ B134-141-17	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで基本的な表現が理解できる。			○	◎
メディア英語Ⅱ B134-141-18	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで少し発展的な表現が理解できる。			○	◎
メディア英語Ⅲ B234-141-27	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで多くの表現をそのまま理解できる。			○	◎
メディア英語Ⅳ B234-141-28	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで発展的な内容がそのまま理解できる。			○	◎
英語表現法Ⅰ B134-141-15	英作文や会話などの英語による自己表現演習	基礎的な英語を使って自己表現ができる。			○	◎
英語表現法Ⅱ B134-141-16	英作文や会話などの英語による自己表現演習	少し発展的な英語を使って自己表現ができる。			○	◎
英語表現法Ⅲ B234-141-25	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。			○	◎
英語表現法Ⅳ B234-141-26	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	少し発展的な英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。			○	◎
英語読解法Ⅰ B134-141-13	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で様々な英文の内容が理解できる。			○	◎
英語読解法Ⅱ B134-141-14	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で少し発展的な英文の内容が理解できる。			○	◎
英語読解法Ⅲ B234-141-23	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な英文の内容が理解できる。			○	◎
英語読解法Ⅳ B234-141-24	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な発展的な英文の内容が理解できる。			○	◎
実践英語Ⅰ B134-141-31	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で基礎的な問題の解答ができる。			○	◎
実践英語Ⅱ B134-141-32	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で少し発展的な問題の解答ができる。			○	◎
実践英語Ⅲ B234-141-41	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で発展的な問題の解答ができる。			○	◎
実践英語Ⅳ B234-141-42	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で少し高度な問題の解答ができる。			○	◎
ドイツ語Ⅰ(基礎) B134-145-11	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解				◎
ドイツ語Ⅱ(基礎) B134-145-12	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解				◎
ドイツ語Ⅲ(読解) B234-145-21	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化			○	◎
ドイツ語Ⅳ(読解) B234-145-22	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化			○	◎
ドイツ語Ⅲ(表現) B234-145-31	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化			○	◎
ドイツ語Ⅳ(表現) B234-145-32	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化			○	◎
ドイツ語Ⅲ(総合) B234-145-41	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化			○	◎
ドイツ語Ⅳ(総合) B234-145-42	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化			○	◎
ドイツ語会話Ⅰ B234-145-51	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成			○	◎
ドイツ語会話Ⅱ B234-145-52	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成			○	◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
中国語Ⅰ(基礎) B134-147-11	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。				◎
中国語Ⅱ(基礎) B134-147-12	中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。				◎
中国語Ⅲ(読解) B234-147-21	1年次に習得した中国語を基礎に、簡単な文章を読むことによって中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の読解力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。			○	◎
中国語Ⅳ(読解) B234-147-22	中国語Ⅲ(読解)を受けて、様々な文章を読むことによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の読解力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。			○	◎
中国語Ⅲ(表現) B234-147-31	1年次に習得した中国語を基礎に、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の表現力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。			○	◎
中国語Ⅳ(表現) B234-147-32	中国語Ⅲ(読解)を受けて、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の表現力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。			○	◎
中国語Ⅲ(総合) B234-147-41	1年次に習得した中国語を基礎に、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、常用語を身につけ、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の運用能力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。			○	◎
中国語Ⅳ(総合) B234-147-42	中国語Ⅲ(総合)を受けて、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、使える常用語を増やし、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。			○	◎
中国語会話Ⅰ B234-147-51	発音の練習を重視し、ペアワークによる会話練習を行い、中国語の会話力を向上させる。併せて、作文と翻訳の練習も行い、中国語の総合的な運用能力を高める。	1年次で学んだ中国語の発音をより正確なものにし、あいさつなどの簡単な言葉から日常用いる初歩的な会話ができるようにする。中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。			○	◎
中国語会話Ⅱ B234-147-52	中国語会話Ⅰを受け、引き続き発音練習を重視し、ペアワークによる会話をほぼ毎回行って、会話力をより向上させる。併せて作文と翻訳の練習にも力を入れ、中国語の総合的な運用能力を高める。	中国語をより正確に発音できるようにし、より多くのことを表現できるよう会話力を高める。会話力と同時に、作文能力や読解力も向上させ、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。			○	◎
フランス語Ⅰ(基礎) B134-146-11	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。				◎
フランス語Ⅱ(基礎) B134-146-12	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。				◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
フランス語Ⅲ(総合) B234-146-41	短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の表現を確実に身につける。	フランスで生活するつもりになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、フランス語会話に集中する。			○	◎
フランス語Ⅳ(総合) B234-146-42	練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につける。	フランス語の基本的な例文を覚えると同時に、日本語からフランス語への言い換えも行えるようにする。			○	◎
韓国語Ⅰ(基礎) B134-148-11	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。				◎
韓国語Ⅱ(基礎) B134-148-12	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。				◎
韓国語Ⅲ(読解) B234-148-21	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、レベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	韓国語の基礎文法を踏まえ、より豊かな基礎会話を養うことを目標にする。徐々に語彙・文法項目を増やしていき、韓国語で書かれた文章に対する理解力を高める。			○	◎
韓国語Ⅳ(読解) B234-148-22	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	中級レベルの文法や語彙を学び、韓国語としてより自然で円滑なコミュニケーションができるようにする。より豊かな言語表現力を養い、韓国語文章に対する「読む・書く」能力の上達を目標にする。			○	◎
韓国語Ⅲ(表現) B234-148-31	文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広げる。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基本文の作り方を練習する。そのために、基本文法と単語の学習を行う。これに基づいて、実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。			○	◎
韓国語Ⅳ(表現) B234-148-32	韓国語の文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広げる。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基礎的な文の作り方を練習する。そのために、基本文法と基礎単語の学習を行う。実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。			○	◎
韓国語Ⅲ(総合) B234-148-41	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象にし、ハングル検定試験5級に合格するために必要な発音の仕組み、基本文法などを学習していく。文法事項や語句、日常会話文等を繰り返し練習し、ハングル検定試験5級合格に必要な基本的な能力を身につける。	基本文法については韓国語Ⅰ・Ⅱで学習した復習から始め、ハングル検定試験5級合格のために必要な発音と文法を学び、自ら学習できるようにする。基本文法と語句、日常会話文などの反復学習を通して習得していく。また練習問題と課題を通して、その定着と更なる応用発展を図る。			○	◎
韓国語Ⅳ(総合) B234-148-42	ハングル検定試験5級に合格するため、基本文法、語句、日常会話文などを学習する。また11月に実施されるハングル検定試験に向けて実際の過去問を用いて練習する。適宜、試験に必要な発音や文法、語彙に関する解説を行う。	ハングル検定試験5級に合格する。あるいは5級に挑戦できる能力を身につけることを目標とする。すでに5級を取得した学生にとっても、次のステップアップにつながる足場を固める場となることを目標とする。			○	◎
韓国語会話Ⅰ B234-148-51	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	ハンガルの読み書きが確実にできるようになる。基礎的な文法を身につけ、あいさつ、自己紹介、身の回りのことについて自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようにする。			○	◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
韓国語会話Ⅱ B234-148-52	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができませんとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみることにし、積極的に話す機会を与える。	約700個の単語をもとに、初級レベルに必要な会話のスキルを身につけるようにする。その上で日本語とは異なる韓国語特有の会話の仕方を学習し、その背景にある文化についても考察できるようにする。			○	◎
韓国語会話Ⅲ B234-148-53	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の日常的な会話で自己表現ができる。			○	◎
韓国語会話Ⅳ B234-148-54	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の発展的な様々な内容の会話で自己表現ができる。			○	◎
スペイン語Ⅰ(基礎) B134-149-11	初めて学ぶ人を対象にグローバル言語の1つであるスペイン語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を学び日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な日常会話を使えるようにする。				◎
スペイン語Ⅱ(基礎) B134-149-12	スペイン語Ⅰ(基礎)で学んだスペイン語のさらなるステップアップを目指す。単語の理解や発音の習熟度をより高め、かつ使用できる文型を増やすことによって、スペイン語の運用能力を高める。	スペイン語の発音をより確実なものにし、多くの常用単語、重要文型を学び、初歩的なスペイン語運用能力を身につける。				◎
スペイン語Ⅲ(読解) B134-149-21	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形などさらにレベルアップした内容を学んでいく。	さまざまな時制を含むバリエーションに富んだ文章が理解できるようになる。			○	◎
スペイン語Ⅳ(読解) B134-149-22	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、幅広い種類の文章に慣れる。	辞書を使ってやや長い文章が理解できるようになる。			○	◎
スペイン語Ⅲ(表現) B134-149-31	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去や未来の時制といった中級程度の内容を学ぶ。	あらゆる時制を使いこなし、自分の気持ちのある程度自由に表現できるようになる。			○	◎
スペイン語Ⅳ(表現) B134-149-32	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、表現の幅を広げていく。	辞書を使いながら、大きな支障なくコミュニケーションが取れるようになる。			○	◎
スペイン語Ⅲ(総合) B134-149-41	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形など中級程度の内容を学び、演習を多く行う。	会話や文字などさまざまな手段で、自分の気持ちのある程度自由に表現することができる。			○	◎
スペイン語Ⅳ(総合) B134-149-42	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。命令形や反実仮想といった上級レベルの表現を学ぶ。	辞書を使えば大きな支障なく相手とスムーズなやり取りができる。			○	◎
スペイン語会話Ⅰ B134-149-51	先生や学生どうしでのコミュニケーションを通して、正しい発音を身につけつつ挨拶など基礎的な表現を学ぶ。	挨拶、簡単な自己紹介、日常の動作といった基本的な表現を覚え、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。			○	◎
スペイン語会話Ⅱ B134-149-52	スペイン語会話Ⅰを履修した学生を対象に、嗜好や予定などさらにバリエーション豊かな表現を学ぶ。	繰り返し練習を重ね、辞書を使ってさらに複雑なコミュニケーションが取れるようになる。			○	◎
スポーツ科学Ⅰ B135-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	◎			◎
スポーツ科学Ⅱ B135-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	◎			◎
スポーツ科学Ⅲ B235-592-03	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	◎			◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
スポーツ科学Ⅳ B235-592-04	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	◎			◎
海外事情Ⅰ B139-852-01	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。			○	◎
海外事情Ⅱ B139-852-02	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。			○	◎
海外事情Ⅲ B139-852-03	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。			○	◎
海外事情Ⅳ B139-852-04	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。			○	◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し、決断するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
健康科学入門 Z111-503-01	健康科学は広い分野に及ぶ。そしてその分野が密接に関わっている。健康科学科にある様々なコースで学ぶ専門分野を広く浅く学ぶことで、それらの分野がどう関わり合っているか、そして自分の興味のある分野はどれなのかに気づいてもらう。	健康科学にはどのような分野があり、どのように関わり合っているのかを捉え、自分の興味がある分野について、理由とともに論じることができる。	◎	◎	○	◎
健康リハビリテーション医学入門(医学総論を含む) Z121-591-01	医療とリハビリテーションの基礎知識を学び、多職種連携の重要性を理解することを目的とする。科学的根拠に基づく医療実践と倫理感を身につけ、チーム医療の基礎を修得する。	健康リハビリテーション医学の基本的な概念、リハビリテーションの目的、対象となる疾患や障害について理解し、説明できる。 医師、歯科医師、言語聴覚士など、異なる専門職がどのように協働し、患者支援を行っているかを理解し、多職種連携の重要性を説明できる。 医療とリハビリテーションにおいて、科学的根拠(エビデンス)の重要性を理解し、エビデンスに基づいた実践の意義を説明できる。 医療従事者として必要な基本的なコミュニケーションスキルと、高い倫理観の重要性について理解し、説明できる。	◎	○	◎	◎
健康スポーツ科学入門 Z111-592-01	スポーツと健康づくりについてはもちろんのこと、身体、心理、栄養、技術、社会、指導といった様々な視点からスポーツを学んでいく。また講義だけでなく、体験学習やグループワークを多く取り入れる。	科学的根拠に基づくという意味を理解し、物事を科学的に論じることができる。また体験学習やグループワークの場面で協調した行動を取ることができる。	◎	○	◎	○
健康教育学入門 Z121-271-01	自ら健康であるだけでなく、周囲の個人・グループ・集団に対して健康教育ができるようになるための基盤をつくる。また、健康教育が必要な課題に気づき、必要な教育を選択するための基本的な知識・技能を習得する。	科学的根拠に基づいた健康教育ができる基盤を作る。また、健康教育が必要な課題に気づき、必要な教育を選択するための知識・技能の習得のため、グループワークや課題に積極的に取り組むことができる。	◎	◎	○	○
プレセミナーⅠ Z112-841-01	大学生としての初心を固め、将来のキャリア形成の一步を築く。大学の機能やグループワークの重要性を体験、理解することで、大学生生活の充実を図る。	健康科学を学ぶ初学者として必要なパソコン操作のスキルを習得する。 グループワークを通じて協調性と協働性を高める。 自己理解と他者理解の目を養うことができる。 自身の将来像をイメージできる。	◎	○	○	
プレセミナーⅡ Z112-841-02	「科学的に読む」「科学的に書く」「科学的に話す」ことの基礎を習得する。	健康科学を学ぶ上で特に必要となる「科学的に読む」「科学的に書く」「科学的に話す」ことの基礎を習得する。 グループワークを通して、協調性と協働性を高める。	◎	○	○	
解剖学 Z131-481-01	正常な体の構造と機能を系統的に理解する	人体諸器官の基本的な形態、構造および機能を十分に理解し、習得する。	◎			
学校保健(学校安全等を含む) Z131-583-01	学校保健の役割を理解し実践者となる資質能力を養う	学校保健活動の重要性を理解する。学校保健には、保健管理と保健教育があり、それぞれの役割と具体的な活動内容を知っている。また、学校保健安全法に記されたいくつかの基準とその必要性を理解する。	◎	○		○
生理学 Z131-482-01	基本的な生命の仕組みと働きについて、からだの構成の基本となる器官系からその基礎を学ぶ。さらにはそれらの器官がどのように連携し、恒常性を維持しているのかを捉える。	健康の基礎となるからだの恒常性維持調節がどのように行われているか説明できる。 それらの調節の連携を理論的に考え、説明できる。	◎			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し、決断するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
衛生学・公衆衛生学 Z231-583-02	わが国の国民の各年齢層に対して地域や職場といったそれぞれの生活状況に応じて実施されている公衆衛生活動を紹介し、同時に公衆衛生活動を理解するために必要な用語についても解説を加える。	公衆衛生活動の有用性を理解する。主要な公衆衛生の指標を説明できる。心身の健康増進に向けて、公衆衛生の立場からの対策を考えることができる。	◎	○		○
学習・認知心理学 Z231-282-01	言語聴覚士のための学習認知心理学	言語聴覚士の職務には広範な学問領域の知見の理解が求められ、負担は軽くないと察せられるが、授業期間にこの領域の基本的事項を確実に習得する。	◎			
救急・応急処置 Z231-556-01	緊急時、または傷病者発見時にバイスタンダー(救急現場に居合わせた人)としての役割と行動を習得することにより、尊い命を守ることを学ぶ。	救急の連鎖(心停止の予防・心停止の早期発見と通報・心肺蘇生とAED・二次救命処置と心拍再開後の集中治療)について理解並びに実践ができる。心肺蘇生の手順を理解し、胸骨圧迫とAED使用ができる。成人、子どもの一次救命処置を理解することができる。日常生活に遭遇する突発的な状況下での応急処置の必要性と実際を理解する。	◎			
健康医学(内科学を含む) Z231-521-02	さまざまな病気を考えることで健康を考える	原因・症状・治療等を理解し、個人としては予防できるようになる。集団においては自分の役割を果たせるようになる。	◎			○
健康統計学 Z231-603-01	健康を科学的に評価するための基礎を学ぶ	健康情報を「つくる側」と「つかう側」の両方の視点より、できるだけ多くの保健統計例を紹介し、現場で有用な基本的統計処理能力とその利用方法を習得する。	◎			
言語学 Z231-136-01	言語聴覚士に必要な言語の単位と構造など言語学の基礎を学ぶ	1. 言語聴覚士を目指す学生に必須の、言語学の基礎知識を身に付ける。2. 言語学の基本的なタームおよび考え方を解説し、言語聴覚士国家試験の言語学領域の問題を解く力をつける。	◎	○		○
生涯発達心理学 Z231-282-02	自分の歩む道(ライフ・コース)を考える	自らの心の成長とアイデンティティの確立を模索し、人生における生きがいを探求し続ける契機をつかみ、これから自分の歩む道(ライフ・コース)を考えられるようになる。	◎			
健康スポーツ栄養学 Z231-594-01	スポーツのパフォーマンスに貢献する栄養学と健康に役立つ栄養学	健康とスポーツの競技力向上に必要な栄養学的知識を習得し、自分自身で「何を食べる・どのように食べるか」のアスリートの、健康的な食事管理ができる。	◎			
健康スポーツ心理学 Z231-592-02	スポーツ心理学の基礎を学び、同時にメンタルスキルを獲得する。	自分自身の感情、思考、行動のコントロールをすることで、本番での実力発揮やストレス対処法を学ぶ。セルフコントロールができることで、円滑な人間関係を築く。実力の発揮や良好な対人関係を結ぶことができる。	◎			
精神医学・精神保健 Z231-523-01	精神医学・メンタルヘルスの基本の基本を学ぶ	精神医学・精神保健の基本を理解する。	◎	○		○
病理学 Z231-492-01	病気の成り立ちを理解する	疾患の予防、診断、治療を主とした臨床医学の基本的知識を習得する。	◎			
分子遺伝学 Z231-451-01	健康科学における遺伝の話	セントラルドグマ、染色体、メンデル遺伝、多因子遺伝、集団遺伝、遺伝子診断などを学び、これらを体系的に説明できる。	◎			○
リハビリテーション医学 Z231-591-01	言語聴覚士が携わるリハビリテーション医学分野について、概念や目的、時期別リハビリテーション治療、それに関わる職種の内容などを理解する。	リハビリテーション医療の概念、目的について理解し、説明できる。時期別リハビリテーション医療、支援について理解する。リハビリテーション医療に携わる職種について理解し、説明できる。	◎		◎	○

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
社会保障・教育 Z331-262-01	障害者支援制度・社会保障・福祉について、国家試験ならびに臨床現場で必要とされる基本的な知識の習得	社会保障と福祉の仕組みを知り、その関連を理解する。障害者を支援する制度は医療だけではなく、一生を通じて様々な施策、制度によって社会サービスが提供されていることや他の専門職との連携があることを理解する。	◎	◎		◎
小児科学 Z331-525-01	大切な子供達の成長を助け、健康を守るには周りの大人が正しい知識を持っていることが大切である。将来、子供とかかわりのある職業を選ぶ場合に必要な、子供の健康や病気について理解を深める。	子供の健全な発達や子供に多くみられる病気についての知識を身に着け、かかわる子供の健康状態を正しく把握し、必要な初期対応ができるようになる。	◎			○
生活習慣病論 Z331-594-02	生活習慣と健康との関連を学ぶ	生活習慣病のメカニズムを理解し、その対策を具体的に説明できる。	◎			
救急・応急処置演習 Z332-556-02	緊急時、または傷病者発見時、バイスタンダー(救急現場に居合わせた人)として対応できる救急応急処置実践技術を習得する。	人間の命を守るための救急・応急処置の知識・技術が実践的に習得できる。運動実施中に発生しうる救急疾患や外傷的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防が理解できる。運動開始前後の自覚症状、他覚徴候などの具体的な状態を理解し、運動中止を判定する方法を理解する。内科的な急性、慢性障害の概要と予防方法を理解する。AEDや心肺蘇生、気導異物除去などの技術習得により実践ができる。	◎		○	
遺伝・画像診断学 Z231-522-01	主として、脳の目で見える画像の見方、面白さを学修	脳の画像情報あるいは遺伝情報から、その病態生理を把握し、診断を行うことができる。	◎			
スポーツ歯科医学 Z231-576-02	口腔の機能、疾患を理解し、健康科学科卒業生としての役割役割を学ぶ。	口腔の機能を理解し、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺、神経に発生する疾患、機能障害などについて知り、説明できるようになる。	◎			
スポーツ医学 Z231-503-01	健康のための運動、スポーツの役割や方法を内科的、外科的に捉えながら学ぶ。またの運動、スポーツのリスクについても考え、その予防、治療方法についても学習する。	運動、スポーツが健康に与える効果について生理学的に理解する。運動療法が内科的に与える効果について理解する。運動、スポーツにおける内科的障害及びその対処法について理解する。運動、スポーツにおける外傷や障害及びその対処法について理解する。	◎	○		
薬理概論 Z131-474-01	薬理学を中心に、薬物に関する基本的事項を学ぶ。	薬物の生体への働きかけと生体の薬物への働きかけについて理解する。	◎			
養護概説Ⅰ Z131-583-03	養護教諭の歴史と養護活動の基礎	養護教諭とはどのような職業か、どのような役割を担うのか、その成立過程にはどのような要因や歴史的背景があったのか、などについて理解できる。専門職である養護教諭の活動全般とその成立過程の全体像が理解できる。	◎			○
養護概説Ⅱ Z131-583-04	養護教諭としての活動の実際を体得する	養護教諭として、保健室の中でどのように子どもと関わっているか、そのプロセスを理解する。子供から「話を聞く」「表情を診る」「痛みの程度を観察する」などを通して、判断・処置につなげる過程も理解する。	◎	○		○

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
小児保健学 Z231-525-02	子どもの成長や発達段階を学ぶことにより、子どもの養育、環境、社会問題化している虐待や障害について、幅広く子どもを取り巻く現状と課題からの保健活動を考える。	①子どもに関する制度政策(保健衛生の変遷、母子保健サービスの動向、児童に関する法律等)について学ぶ②子どもの発達段階とそれらの課題について学ぶ③小児によくみられる疾病や事故を理解し、予防や安全対策、緊急を要する際の対応を学ぶ④保健現場で活用できる応用力を身につける⑤子どもの視線で物事を見つめ、子どもと接する際の適切な態度を習得する⑥子どもの発達段階に応じた身体等の計測が正しく実施でき、アセスメントできる⑦発達障害や児童虐待等、昨今の現状をふまえ、子どもの環境を考えることができる	◎	○		○
微生物・免疫学 Z231-495-01	微生物の中でも、主に人体に有害な影響を及ぼす病原性微生物を中心に話題を進めるが、一部に酒やヨーグルトの製造に利用される応用微生物についても知識を深める。	微生物の分類(細菌、ウイルス、真菌、原虫)を説明できる。菌、ウイルス、真菌、原虫の代表的な病原性微生物について説明できる。感染症の対策法を説明できる。学校でおきうる感染症とその対策法を説明できる。	◎			
予防医学 Z231-583-05	子どもの病気を予防・発見できる力を習得する	子どもの訴えに対して、正しく見立てをし、適切な指示・指導ができる。実例をもとに学校で確実に実践できる能力を身につけることができる。	◎			
栄養生化学 Z231-594-03	食物を体と力に変換するメカニズム	栄養素と健康との関係が細胞の生理活動に深く関わっていることを理解する。	◎			
学校保健演習 Z232-583-07	学校保健活動を学校現場で実践するために必要な知識と技術の習得	学校保健活動の中でも中心的な健康診断と環境衛生検査が正しく実施できる技術を習得できる。	◎		○	○
看護学 Z331-585-01	養護教諭に必要な基礎的・基本的な看護の知識および技術を学ぶ。	養護教諭になるために看護学を学ぶ意義を理解し、基礎的・基本的な看護学の知識および技術を学習する。	◎	○		○
看護演習 Z332-586-01	理論とケアを連動させた看護技術とアセスメント力を習得する	1)学校保健の中での医療、緊急時における医療的援助についての基本的知識を習得する。2)日常生活における援助に必要な看護技術を習得する。3)基礎看護技術から対象の個性にあわせた技術の活用を理解し、習得する。	◎			○
健康情報と医学 Z231-621-01	日々健康であるための健康情報リテラシー及び心の能力を育む	様々な情報が溢れている今日、自分自身の状況やニーズに合った情報を入手し、それらを活用しつつ、日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的な能力を身につける。		○		○
生涯健康論 Z231-594-05	一生の健康を考える	栄養・運動・休養について深く学び、一生を通じて病気や障害を生じないように知識と技術を獲得する。	◎			
介護概論 Z231-583-09	「介護高齢社会における現状と課題を学び、これから必要とされる社会的支援の在り方を考える。	①高齢者に関する社会保障制度としての「介護保険法」の理念並びに仕組みを学び、高齢者介護サービス提供についての現状と課題を理解する。②医療、保健、福祉サービスにおける専門職の役割や活動の場面から多職種連携についての理解を深める。③加齢は誰もが経験することであり、また自身も歩む道であることをふまえ、高齢になることが特別なことではなく、自身や家族のこととしても考えることができ、必要な時に必要な人に支援の手をさしおけることができる。	◎	○		○

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標に向かうことができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
体力測定・評価 Z131-592-03	一般の方々の健康づくりやアスリートの競技力向上に欠かすことができない体力を科学的に捉えて、そのうえで体力をどのように測定し評価するのかを学ぶ。	指導者の視点から体力を科学的に捉えるための知識と評価の基礎を習得する。	◎			
運動生理学 Z231-482-02	運動時のからだの反応や運動トレーニングで体力やスポーツパフォーマンスがどうして向上するのか、そのしくみについて学ぶ。	この科目で学んだ知識を十分に理解し、実際のスポーツ活動や指導に応用できる。	◎			
健康運動指導実技(アクアビクス) Z235-592-17	水中運動の実践的指導技術の習得	水の物理的特性を理解することにより、アクアエクササイズ的安全かつ効果的なプログラム作成能力および実践的な指導技術と技能を習得する。	◎		○	
健康運動指導実技(エアロビク) Z235-592-18	エアロビクを指導するための基本的な技術を習得する	エアロビクの特性と効果について理解し、対象(性、年齢、体力)に応じた運動の効果と安全性が確保できるようなプログラムを構成指導できる能力を習得する。	◎		○	
健康運動指導実技(ジョギング・ウォーキング) Z235-592-19	健康運動の基礎について理解を深める	生活習慣病を予防するための効果的なウォーキング・ジョギングの指導ができる。	◎		○	
レクリエーションスポーツ実習 I Z233-852-01	スキーを通じたレクリエーションスポーツの実践	健康の維持・増進のための生涯スポーツ・レクリエーション活動の指導能力を習得する。協調性、共感性、自立心、リーダーシップなどを養うための指導法を習得する。			◎	
運動生理学演習 Z232-482-03	運動生理学で学んだ理論を実践する	呼吸機能と筋機能のメカニズムについて、自ら測定し、理論的理解と実際の生理的応答を理解する。	◎		○	
体力測定・評価演習 Z232-592-23	体力測定評価の知識と技能を実践を通して習得する	授業で取り扱った体力測定と得られた測定値の評価を各自で行うことができる。	◎		○	
生涯学習社会論 Z231-271-04	持続可能な社会の発展と生涯学習	1.生涯学習社会の背景について理解する。2.日本の生涯学習政策の問題点について把握する。3.持続可能な生涯学習社会の構築に向けて自分なりの考えを持つ。		◎		
レクリエーションスポーツ実習Ⅲ Z233-852-02	優れたレクリエーション指導者として必要な知識、技術、指導法を実践しながら学んでいきます。その中で、自主性を養い、規律を守り、友情を深め、豊かな人間性をも獲得していきます。	アウトドアに関する技術を修得し、指導を行うことができる。	◎		◎	◎
保健科教育法Ⅲ Z231-271-05	中学生にとっての心身の健康課題を考えながら、中学生にとって、「わかる」「楽しい」「考える」保健授業を展開できる能力を習得する。特に本授業では、授業の実践力を養成することを主体とする。なお、授業はすべての学生が模擬授業を行い、相互評価を繰り返すというアクティブ・ラーニング形式で実施する。	中学生にとっての心身の健康にかかわる課題を説明できる。授業の実践力の基本を習得する。他者の模擬授業を適切に評価し、自己へのフィードバックができる。	◎	◎	◎	◎
体育原理 Z131-593-01	スポーツや体育の現実を直視し、スポーツや体育の世界を支配するさまざまな諸原理を明確にして、それらを体系立て論究するスポーツや体育の問題群と向き合い、考察を重ね、自らの考えを討議によって批判にさらし、より精緻なものに高めていく。	①体育やスポーツに関するの原理原則を論理的に考えていくことができる。②体育やスポーツに関して客観的に、発言し、記述し、議論できる。③体育やスポーツの専門家として自己のあるべき姿や、人間社会の課題に関心を持つだけでなく、その解決に向けて探求する態度を持つ。	◎			
運動学(運動方法を含む) Z231-593-02	スポーツ運動学・キネシオロジー入門	客観的および主観的にとらえられた人間の運動に関する知識を獲得するだけでなく、自分自身が考えた運動指導の内容を授業で得た知識をもとに批判的に検討することによって、よりよい指導へと修正できる。	◎			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し、自ら課題を解決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
障がい者スポーツ論 Z231-592-04	アダプテッドスポーツとしての障害者スポーツの理解	障害とは何であるかを理解し、障害者スポーツの対象者がどのような状態であるかを深く学ぶ。障害者スポーツとしてパラリンピック等で設定されている多くのスポーツ種目を理解し、指導する場合には必要な知識を身につける。実践者としての基本的な姿勢について考察できる。	◎	○		○
スポーツ経営学 Z231-592-05	スポーツ集団が成果を高めるためのマネジメントについて学習する。スポーツマーケティングについて学習する。スポーツイベントの運営や企画について学習する。なお運動部活動や体育祭も事例として取り上げる。	組織のマネジメントについて論じることができ。スポーツマーケティングの基本的知識を理解し、科学的根拠に基づいてスポーツ消費者を分析することができる。スポーツイベントの事業を立案することができる。	◎	◎		
トレーニング科学論 Z231-592-08	トレーニングの目的(健康増進、介護予防、競技力向上)や対象者(高齢者、一般成人、アスリート等)に応じたトレーニングにおける理論と実施方法について学ぶ	トレーニングに必要な基礎知識を習得し、適切なトレーニング計画を立案できる。	◎			
バイオメカニクス Z231-592-09	身体運動を力学的に捉える基礎を学び、これまで自らが経験してきた運動やスポーツについて力学的な視点から考えることができる統合的な学習経験と創造的思考力を養うことをねらいとする。	ヒトの運動は筋力の発揮によって成り立っている。しかしながら、単に筋力が大きいだけでは高いパフォーマンス(運動の成果)を発揮することができない。一流のスポーツ選手は力発揮のタイミングや力調節を微妙に行うことにより、我々の想像を絶するパフォーマンスを発揮している。バイオメカニクスでは、力を扱う学問である力学を基に、身体運動のメカニズム(しくみ)について究明していく応用学問である。この授業では、運動と力との関係について学び、スポーツでみられる動きを力学的に考察し、指導に生かすことができるようになる。	◎			
体育実技(器械運動) Z235-593-03	徒手、及び器械で行う身体運動の必要性を理解し、実践方法を身につける。	徒手体操と器械体操の特性を理解し、運動技術を身につけ指導法を習得する。	◎		○	
体育実技(水泳) Z235-593-04	近代4泳法を修得していく中で、指導方法を養う。さらに、泳法を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。自己管理能力、チームワーク、生涯学習力なども水泳を通して身につけることをねらいとする。	水泳に関する専門的知識および技術について学び、自らが指導できるようになるための必要な知識・技能を習得する。保健体育教員として要求される水泳の知識・技術の獲得を目標とする。また、教育実習の際、授業の立案・計画および実施ができるよう指導力の習熟も目的とする。クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの近代4泳法について、生徒たちの見本となるような運動能力を身に付けるとともに、水泳技術を習得させるための指導法(理論的理解)を理解する。また、水泳以外の水中運動や、水中安全教育についても学ぶ。	◎		○	
体育実技(ダンス) Z235-593-05	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、安全に思いきり身体を動かす事、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さなどダンスの醍醐味を経験する。	ロック、ヒップホップ、サンバ(現代的なリズムダンス)の説明ができ、しかも振り付け、踊る事ができる。表現ダンスの指導ができ、しかも身体で表現する事ができる。いかなるリズムダンスや表現ダンスに対し、人前で恥ずかしがらずに自信を持って発表する事ができる。	◎		○	
体育実技(陸上競技) Z235-593-06	体育授業で陸上競技を指導できるようになる!	『中学校学習指導要領保健体育編』に示された『C陸上競技』の[第3学年]レベルの技能を習得する。その技能を身に付けるための段階的指導を他者に行うことができる。授業で取り上げた各種目の記録会を運営できる。	◎		○	

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
健康スポーツ心理学演習 Z232-592-22	科学的な方法で質問紙調査ができるようにする	質問紙を用いて調査が実施できる。データを分析する基本的な方法が習得できる。得られた結果をまとめてレポートが作成できる。	◎		○	
トレーニング演習 Z232-592-24	基本的なトレーニング方法を理解した上で、実践によるトレーニングへの理解を深めていくように講義を進めていく。身体各部のストレッチングおよび、各種トレーニングの方法・実践と共に指導法を学んでいきます。	ストレッチや各種トレーニングの方法を理解し、見本を見せることができ、かつ指導をすることができる。	◎		○	
保健体育科教育法Ⅲ Z131-271-01	中等学校における体育科教育に関し、教科成立の根拠や学力論、学習評価論の各視点から考究するとともに、現今の中等学校の体育授業が抱える実践課題とその改善策について探求する。	体育科教育が必修であり続ける根拠、現代において体育科教育が果たすべき使命について説明できる。また、新しい時代の文化創造と変革の主体者として相応しい学力およびそれを保障する授業実践のデザインについて論じることができる。	◎		○	
保健体育科教育法Ⅳ Z231-271-06	保健体育科教師の職責について学ぶとともに、教科としての保健体育の目標と内容について学習する。加えて、保健体育科における教材づくりと授業づくりに取り組むとともに、授業実施に際して必要になる教授スキルについて各種の演習を通して学習する。	学習指導要領が示す保健体育の目標と内容について理解し、その内容を踏まえたり授業計画を立案することができる。	◎		○	
言語聴覚障害総論 Z131-591-02	言語聴覚療法とは何かを「知る」	ことばの起源、コミュニケーション手段としてのことばの位置づけを考える基本的な知識を得る。言語聴覚障害の学問としての歴史、言語聴覚士法、言語聴覚士の役割と関連職種、業務と関わりのある周辺の諸事情について情報を得る。言語聴覚障害者そのものを学ぶとともに、言語聴覚障害者を取り巻く環境の様々な問題点にも触れ、支援する立場でどのような関わりができるかを考える。	◎			
臨床歯科医学 Z131-576-01	口腔の機能、歯・歯周組織の構造・機能・疾患について理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ。	1. 歯、歯周組織、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能、疾患、治療法について知り、説明できるようになる。 2. 歯、歯周組織に発生する疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。 3. 咀嚼、摂食・嚥下、構音と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。	◎			
臨床神経学 Z231-522-02	神経解剖を前提に、その病気を理解する	構音障害、嚥下障害、失語症、認知障害の病態生理を学び、これらの障害をきたす疾患の病因、症状、治療、リハビリテーションを体系的に説明できる。	◎			○
形成外科学 Z231-567-01	口腔・顎・顔面・頭部への形成外科的アプローチについて理解し、言語聴覚士としての治療における役割を学ぶ	1. 皮膚の解剖と生理および創傷治癒機転について知り、説明できるようになる。 2. 頭部、顔面の損傷、先天異常、症候群について知り、説明できるようになる。 3. 基本的な形成外科的治療について知り、説明できるようになる。	◎			
呼吸・発声発語系の構造・機能・病態・検査 Z231-513-01	聴器・喉頭・構音器官・呼吸器の解剖生理学について理解し、言語聴覚士としての診察・治療における役割を学ぶ。	1. 耳の構造や生理的機能が明確に説明できる。2. 発声・発語に関わる器官である鼻咽腔・喉頭の構造や生理的機能についても説明できる。	◎			
神経系の構造、機能・病態・画像検査 Z231-513-02	3次元的に脳の構造、さらに機能へのつながりを修得する。	ニューロンの機構、中枢神経系の構造・機能、発話と聴覚の神経機構、脳神経の構造・機能を学び、これらの病態生理を体系的に説明できる。	◎			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
音声学 Z231-136-02	音声学の体系的・理論習得と音の聴取・識別・表記、発音の実践的習得	音声について、基礎から発展的に学習する。	○			
言語発達学Ⅰ Z231-276-01	正常な言語発達を学習し、言語発達障害とその支援を理解する基礎を形成する。	言語発達理論を理解する言語発達の指標を頭に入れる子どもの発達の程度を評価する視点を身に付ける	○			
失語症Ⅰ Z231-512-01	失語の基礎の基礎	言語モダリティー（話す、聞く、読む、書く）別の言語情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語型・純粋型の症候と病巣との関連を統合的に説明、図示できる。	○			
言語発達障害学Ⅰ（総論） Z231-276-02	言語発達の流れと比較しながら、言語発達障害の理解を深める	定型発達と比較し、発達レベルと特性の違いや、評価・訓練のあり方についての概要を理解する。	○	○		
言語発達障害学Ⅱ（評価） Z331-276-03	定型発達および言語発達障害児者の評価方法を理解する	演繹評価（情報収集・観察・検査と問題点の抽出、予後の推定、長期および短期目標の立案、指導等のプログラム）と帰納的評価（プログラム実施・チェック・再評価）を理解する。	○	○	○	○
機能性構音障害 Z231-513-06	機能性構音障害障害像から実際の技術を理解する	構音障害全体の中で機能性構音障害の位置づけを確認し、そこから機能性構音障害の本質を理解する。	○	○	○	○
器質性構音障害 Z331-513-07	器質性構音障害障害像から実際の技術を理解する	器質性構音障害の原因となる疾患の種類と、それぞれの疾患の特徴、構音に及ぼす影響についての知識を得ることにより、構音障害の発生機序についての理解を深める。	○	○	○	○
聴力検査 Z231-565-03	検査のやり方や被検査者の誘導法などを会得する	聴力検査の使用法を習得する。聴力検査選択の実際を学ぶ。	○			
基礎演習Ⅰa Z232-513-11	言語聴覚療法の実際	障害者心理、家族心理を理解し、言語聴覚療法学の応用を理解する。	○			
基礎演習Ⅰb Z232-513-12	臨床で求められる判断力や解決力を養う	言語聴覚障害学の臨床の実際を理解する。基礎知識の臨床応用を体験し、言語聴覚士になりたい気持ちを高める。	○			
基礎演習Ⅱ Z232-513-19	言語聴覚障害全般に関する基礎演習	言語聴覚臨床における必須の基礎的知識の習得。失語症およびその関連症候の理解と分析力を高める。	○			○
聴覚系の構造・機能・病態 Z131-565-01	聴覚系の構造・機能・病態を学び、検査や訓練法などの講義の基礎理解を養う	聴覚系の構造・機能・病態を学び、検査や訓練法などを深く理解することで、補聴器や人工内耳、言語指導などの講義の基盤を形成する。	○	○		
言語発達学Ⅱ Z231-276-04	言語発達を中心に、運動発達・社会性の発達との繋がり学ぶ	言語発達と他領域のつながりを理解し、言語発達障害の葉ビリテーション学習の基盤を形成する。	○	○		
健康相談(カウンセリング) Z331-583-06	養護教諭が行う健康相談・健康相談活動	心身に問題を抱えた児童生徒に対して行う健康相談・健康相談活動の理論を理解するとともに、養護教諭が児童生徒に対応する具体的な技能を習得する。	○	○	○	○
食物化学(食品学を含む) Z331-388-01	食物に含まれる主要な栄養成分(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル)を中心に、それらの化学的、物理的性質と生体内での役割について学習する。	講義を通じ学んだ、食物の様々な利用法や安全性、またそれら食物に含まれる成分の機能性などについて考察し説明できる。	○			
臨床栄養学 Z331-594-04	健康の回復と病気の予防のための栄養摂取法	具体的な傷病への対処法を学ぶ事により栄養学をより深く理解する。健康運動指導士など各種資格試験対策、学校教育や市民活動など健康・スポーツ指導の際に必要な栄養関連のノウハウを習得する。	○			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
看護実習 Z337-851-01	医療の現場において「いのち」を学ぶ	疾病を抱える患者にとっての療養機関の一つである病院において、その機能や医療従事者の役割、多職種連携等を通して患者のQOLや生きる強さを引き出すためのケアについて学び、看護教諭に必要な基礎的看護知識並びに技術を習得することである。	◎	○	○	○
環境健康医学 Z331-583-08	健康と環境について考える	環境が健康に及ぼす影響について理解を深める。	◎	○		
喫煙と健康 Z331-594-06	喫煙問題から健康と社会を考える	喫煙による健康障害を説明できる。 喫煙を例にして薬物依存を理解し、その対策を考えることができる。 喫煙習慣が普及した歴史を理解し、たばこのない社会形成を目指して、活動することができる。	◎	○		
先端医療概論 Z331-621-02	生命科学の進歩とそれが医療に新たにもたらすもの	これまで、そしてこれからの医療の進歩を支える様々な生命科学やテクノロジーの技術発展やそれらが抱える問題点について基礎的な理解を深め、それが必要とされる分野に進むために必要な足掛かりとできる。	◎			
長寿科学 Z331-594-07	高齢者の健康についての基本知識を習得する	高齢者に特徴的な症状や病気を学び、高齢者の健康管理の基礎となる知識を身につける。介護予防、健康寿命の延伸など、高齢者の疾病の予防の重要性を習得する。	◎	○		
学校看護学 Z331-587-01	現代的な健康課題をもつ子どもたちに対して、看護教諭が行う支援について学修する	こどもをとりまく現代的な健康課題について理解し、これらの課題をもつ子どもたちに対して、看護教諭が行う支援を検討する。	◎			○
メンタルヘルス Z331-523-02	児童生徒、保護者、教職員のメンタルヘルス	精神的問題を抱えた人の心理について基本的な知識を得る。	◎			○
運動療法論 Z331-592-10	運動療法の目的は、身体機能の障害をもつ者あるいは障害の予防に対して、その人がもつ能力を最も効果的な運動で高め回復させることである。近年、運動療法が生活習慣病の一次予防に効果的であることが知られている。本講義では、内科的疾患および生活習慣病を有する者の運動処方および運動療法について概説する。	運動療法の効果を科学的に理解し、具体的な処方他者に提供できるようになることを目標とする。	◎			
レクリエーションスポーツ論 Z331-592-16	レクリエーションやスポーツの援助法の知識を包括的に習得する	子どもから高齢者まであらゆる人が、その人が望むレクリエーション活動の実施、またレクリエーションの自立を実現するために必要な援助者としての姿勢や考え方、援助技術を身につける。	◎		○	
レクリエーションスポーツ実習Ⅱ Z333-852-02	優れたレクリエーション指導者として必要な知識、技術、指導法を実践しながら学んでいきます。その中で、自主性を養い、規律を守り、友情を深め、豊かな人間性をも獲得していきます。	キャンプ活動やレクリエーション活動に関する技術を修得し、指導を行うことができる。	◎		◎	◎
運動療法演習 Z332-592-25	様々な対象に応じた運動療法について実践を通して学ぶ	健康づくりの指導者として、確かな技術力と指導力を身につける。	◎			
レクリエーションスポーツ演習 Z332-592-33	レクリエーション・インストラクターとしての技術を身につける	実技を中心とした授業であり、各種ニュースポーツを体験する他、運動ゲームやレクリエーション指導を行い、レクリエーション・インストラクターとして必要な技能を習得する。	◎		◎	

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
集団健康論 Z331-594-10	集団の健康を維持・改善するための政策、プログラム、介入方法などについて学びます。	集団全体の健康状態や、その健康を向上させるための取り組みについて説明できる。個々の病気の治療ではなく、広い範囲の集団全体の健康を守り、向上させることについて説明できる。集団全体の健康を守ることにより、医療費の削減、健康寿命の延伸、疾病の発生予防につながることを説明できる。	◎	○	◎	○
障がい者サポート演習 Z332-591-01	脳卒中後の片麻痺、脊髄損傷による対麻痺、大腿切断など肢体不自由者が必要としているサポート、視覚障害者必要としているサポート、聴覚障害者や知的障害者必要としているサポートは全て異なる。それらの病態や障害を学びどのようなサポートが必要かについて演習する。	肢体不自由を理解するのに必要な病態とその介助方法について学び、実践する。視覚障害を理解するのに必要な病態とその介助方法について学び、実践する。聴覚障害を理解するのに必要な病態とその介助方法について学び、実践する。知的障害について学び、その必要なサポート方法について実践する。	◎	○		◎
健康スポーツリサーチ演習 Z332-592-34	健康増進やスポーツに関する調査方法を実践を通して学ぶ。本授業では社会科学系を取り扱う。具体的には、マーケティングや行動経済学などの内容を学ぶ。	健康増進やスポーツに関する社会科学系の調査が実践できる。	○	◎	◎	
保健科教育法Ⅰ Z331-271-01	高等学校の保健教育では、健康に関する問題に直面した時に適切な意思決定や行動選択ができることを目的とする。したがって、本講義ではこの目的を達成するために必要な保健知識の確認と授業の工夫を学ぶ。各自が担当の単元について、教材研究、資料作成、授業計画等を行った上で模擬授業を実施し、相互に評価することをとして中学生や高校生に適した保健教育について考察し、教育実習に向けての課題を明らかにする。	教育実習(保健)に適応できる授業実践力を習得する。 中学生や高校生にとっての健康教育の意義を説目できる。 他者の模擬授業を適切に評価し、自己へのフィードバックができる。	◎	◎	◎	◎
保健科教育法Ⅱ Z331-271-02	「保健科教育法Ⅲ」と「保健科教育法Ⅰ」での学びに加え、教育実習での経験を踏まえて、保健科教員としての資質と能力を確認する。生涯にわたる健康教育の意義を議論する。併せて、学校保健計画の立案をし、年間計画に沿って保健教育を行うことの重要性を理解する。	研究授業や教育実習での経験を的確に評価し、自分の課題を明らかにできる。 養護教諭にとっての健康教育の意義を説明できる。 小学校からの接続を意識して教材を活用することができる。	◎	◎	◎	◎
保健科教育法Ⅳ Z431-271-01	小学生を対象とした保健実践の質を高めることを目的としている。理解に結びつく教材やより効果的な指導方法を検討する。「わかる(理解)」だけでなく、「変わる(行動変容)」につながるような授業を目指す。アクティブラーニングを中心としているため、すべての講義の中で模擬授業やグループ学習を行う。	小学校の教科「保健」の授業担当者として、子どもの発達段階に応じた授業を実施できる。 子供の課題に沿った教材を工夫することができる。 子供の課題に応じた保健指導を行うことができる。	◎	◎	◎	◎
健康スポーツ情報論 Z231-592-06	スポーツ情報の中から心理学に関連するトピックスを取りあげる。既存のデータを学習する。また、基礎的な実験を行いデータを収集し、それらの情報を解析する基本的な方法を学習し、統計ソフトを用いて統計処理を行う。得られた結果をまとめてレポートを作成する能力を高める。	スポーツ情報を処理する能力が高まる。基本的な統計解析ができるようになる。レポートを作成する能力が高まる。	◎			
スポーツ政策論 Z231-592-07	本講義では、スポーツ行政に関する知識を理解し、国および地方自治体を主として、スポーツをどのように普及振興させようとしているのかを学びます。またアクティブラーニングを積極的に展開します。	国や地方のスポーツ政策に対して自分の考えを論じることができる。	◎	◎		

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標に向かうことができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
スポーツイベント論 Z331-592-11	デジタル、IoT、AIが発展している現代において、多くの人が集うイベントが注目されている。特にスポーツイベントは経済活性化だけでなく、地域振興やまちづくりにも活用されるようになった。そこで、本講義では、スポーツイベントの知識や企画方法について学修する。	スポーツイベントの企画ができるようになる。	○	○		
コーチング学 Z331-592-17	指導者のあるべき姿を考え、討論する	時代が求める指導者になるための基礎を習得する。指導者としての哲学、人格、スキルが身につける。	◎			
スポーツ社会学 Z331-592-13	スポーツをひとつの「社会的出来事」として捉え、社会に及ぼす影響やその要因を考える	今日の体育・スポーツを巡る諸問題をスポーツ集団や組織または制度の側面からとらえ、スポーツの社会的構造と機能について様々な学説から考察することができる。	◎	○		
スポーツ文化論 Z331-592-14	豊穡なスポーツ文化に触れる	様々な体育やスポーツにまつわる諸問題を正しく理解、認識し、問題解決ができる能力を身につける。	◎	○		
スポーツマーケティング Z331-592-15	スポーツの成長産業化とスポーツ振興を推し進めていく上で必要不可欠となるマーケティング理論について事例を交えつつ展開する。	スポーツ特性を理解し、説明できる。 スポーツマーケティング理論を理解し、説明ができる。 スポーツビジネス現場で必要となる知識を理解し、実践に移すことができる。	○	◎		○
体育実技(剣道) Z335-593-07	剣道の基本的な動作を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。	剣道の知識、基本動作・基本技能および初心者や初級者への指導法を学び、自らが実践できる。	◎		○	
体育実技(サッカー) Z335-593-08	サッカーの基本を学ぶと共に、サッカーを通して指導者としての基本的なコーチング法を学ぶ。	経験者のみならず初心者でもサッカーの楽しさを感じ、技術レベルが向上する。	◎		○	
体育実技(柔道) Z335-593-09	柔道の基本的な動作を修得するためにどのように身体を動かす必要があるのか、専門知識・技術を理解するとともに論理的思考力や問題解決能力を養う。	柔道の知識、基本動作・基本技能および初心者や初級者への指導法を学び、自らが実践できる。	◎		○	
体育実技(ソフトボール) Z335-593-10	本授業では、ソフトボールの歴史と特性、基本的な技術や戦術、そしてルールについて学ぶとともに、体育授業で利用可能なさまざまなミニゲームを用いてボールや用具の操作、そして攻撃や守備の戦術について学習する。	「中学校学習指導要領保健体育編」に示された「E球技」における「ベースボール型」の[第3学年]レベルの技能を習得すること、その技能を身に付けるためのドリルゲームやタスクゲームの行い方を工夫できるようになること、そしてソフトボールのゲームを運営できるようになることである。	◎		○	
体育実技(テニス) Z335-593-11	生涯スポーツとして広く普及しているテニスを通じてラケットスポーツの楽しさ・おもしろさを理解し、実践できる能力・態度を養う。	1.テニスの競技特性、技術構造、ルール、マナー、戦術、練習方法等を理解する2.基礎的な技能、戦術を習得する3.道具を用いたネット型対戦スポーツの特性を理解し、指導法を習得する	◎		○	
体育実技(バスケットボール) Z335-593-12	バスケットボールの授業をおこなうための指導法を学び、専門的な技術を養成するとともに、指導者としての資質を身につける。	バスケットボールの特性を理解して、バスケットボールの授業をつくりあげることができる。バスケットボールを指導できる技術を身につける。生徒の個性を尊重して、適切に評価することができる。	◎		○	
体育実技(バドミントン) Z335-593-13	バドミントンの特性に気づき、認識を深め、実践できるようにする。	指導方法を身に付け、自らが実践できる技術を習得する。	◎		○	
体育実技(バレーボール) Z335-593-14	教員免許取得に必要なバレーボール競技の知識、技能および指導法を習得すると共に指導者としての資質向上を目指す。	主体的に個人スキルの課題を発見、解決できる実践的能力を高める。他者との協調性を備え、積極的にコミュニケーションをとることができる。	◎		○	

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解るために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
体育実技(ラグビー) Z335-593-15	ラグビーの特性、ルールおよび基本的なスキルについて学び、自らが実践できるようにすることを目標とする。	ラグビーの楽しさを学ぶのは勿論のこと、指導者としての資質の向上を図る。	◎		○	
健康運動指導演習 Z332-592-26	健康運動指導士としての技能・態度・品格を身につける	実習の場面で健康運動指導士としてのコミュニケーションやたちふるまいに加え、専門的な知識に裏付けられた運動指導ができる。	◎			
コーチング演習 Z332-592-27	リーダーシップに関する知識やスキルを実践を通して学びます。またミーティングやグループディスカッションの方法についても学びます。またグループワークやアクティブラーニングを行っていきます。	確かなリーダーシップを身に付け、集団をまとめ、方向付けることができる。また講義を通して、集団の中でチームワークやルールの遵守といった模範的態度を示すことができる。	○	◎	◎	
障がい者スポーツ演習 Z332-592-28	障がい者スポーツの具体的な種目を体験し、その運営方法を学ぶ。	障がい者スポーツの実践者、コーチ、ボランティアを行うことが可能な能力を身に付ける。	○		◎	
健康スポーツ栄養学演習 Z332-594-08	部活・クラブチームの指導者や養護教諭が活用できるスポーツ選手を対象とした栄養摂取法を理解し、その調理方法について学ぶ。	スポーツ選手の基本食を理解し、調理できるようになること。また、一般食とのボリュームや品数の違いについて説明できるようになる。	◎	○	◎	
メディカルコンディショニング演習 Z332-592-29	スポーツ傷害の適切な応急処置、テーピングなどに加え、競技スポーツにおける実践的知識と技術を習得するとともに、科学的なものの見方、考え方をトレーニングする	演習を通じ学生自身が自己管理能力を高め、自身のパフォーマンス向上を図るとともに、スポーツ指導者を目指す者として、最低限身に付けておくべき傷害に関する評価、および予防方法についての知識と技術を習得する。	◎		○	
トレーニングプログラミング演習 Z332-592-30	健康科学科の総合的な学びを自らのトレーニングを通じて実践する	運動指導者としての仕上げ段階となる実践的な指導方法について学び、あらゆる対象者のトレーニングからリハビリまでを指導できる。	◎			
リハビリテーション演習(スポーツ含む) Z332-592-31	スポーツ外傷・障害の予防、発生時の救急処置について演習する。特に予防については、ストレッチや筋力増強が重要となり、その過程で解剖、運動学の理解が重要となる。前半では特に筋肉の名前や関節運動について理解し、その後効果的なストレッチや体操などを考える。後半は実際のスポーツ障害、外傷を紹介しながら、その診断方法や受傷後のリハビリテーション治療(松葉つえ、車椅子の使用方法など)について演習する。	スポーツ外傷と障害の治療に関する筋、靭帯などの解剖、運動を理解し、予防に関連する筋力増強、ストレッチ方法を解剖学的、運動学的に理解し、考え、実習する。 外傷、障害受傷後に必要な松葉つえ、車いすについての理解とその操作を実習する。	◎	○	◎	
バイオメカニクス演習 Z332-592-32	バイオメカニクスにおける各種測定法の原理・原則について学ぶとともに、実践する。また、得られたデータの数学的演算処理の方法について学ぶ。	ヒトの基本的動作を対象として、定量的に分析・評価できるようになる。また、測定によって得られたデータを研究目的の達成に役立つように加工・処理する方法を身につける。	◎	○	○	
保健体育指導演習 Z332-593-16	保健体育の授業を行うための実践的指導能力の基礎を身につける	保健体育の授業を構成する4要素について、教育現場における具体的な事例をもとに理解するとともに、学習指導案の作成や授業分析を行うことによって、新卒教員に要求される保健体育科の基礎的授業力を身につける。	◎		○	

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ		健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
保健体育実践演習 Z432-593-17	保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび保健体育指導演習を通じてこれまでに修得した保健体育教師としての知識や技能をベースとしながら、中学校および高等学校の教育現場での保健体育教師に要求される「実践的指導力」を身につけます。	学校現場で出会う可能性のある様々な事例や問題を想定し、保健体育科教師としての適切な対応を行うとともに、学習指導を立案したり、実践したりすることができる。 教育実習のふり返りを生かし、「実践的指導力」を身につけていく上での各自の課題を把握するとともに、その課題の克服に向けた様々な取り組みを実践・継続することができる。	◎		○	
パフォーマンス分析論 Z331-592-18	スポーツのパフォーマンスを客観的に評価し、トレーニングやコーチングに役立てる知識や分析方法を学ぶ。	技術、戦術、体力といったパフォーマンスの要因について理解する。 スポーツ現場の課題を抽出するための分析方法やフィードバックを目的としたデータの考察ができる。	◎	◎		
体育実技(ハンドボール) Z335-593-16	ハンドボールの授業をおこなうための指導法を学び、専門的な技術を養成するとともに、指導者としての資質を身につける。	ハンドボールを指導するための技術を習得する。また、ハンドボールの特性を理解し、生徒の能力に適したハンドボールの授業をつくりあげることができる。	◎		○	
体育実技(卓球) Z335-593-17	卓球の授業をおこなうための指導法を学び、専門的な技術を養成するとともに、指導者としての資質を身につける。	卓球を指導するための技術を習得する。また、卓球の特性を理解し、生徒の能力に適したハンドボールの授業をつくりあげることができる。	◎		○	
体づくり運動の理論と実践 Z332-593-35	体づくり運動の授業を行うための理論を学習し、学校体育の場において適切な指導と評価ができるための資質・能力を身につける。	学校体育の場において、体づくり運動領域に求められている役割と、その実践例を学ぶ。加えて、実際に学習指導計画を立案したり、実践したりすることで、生徒の能力に適した体づくり運動の実践と活動の評価ができるようになる。	◎	○	○	
保健体育学習支援演習 Z332-593-36	実際の学校現専門実技の授業における学習支援とその事後討議に取り組むことを通じて、体育の授業実践に向けた教科内容に関する知識と教科の指導法に関する知識の統合を図る。	授業観察分析の演習や、学習支援案にかかわる模擬実践に取り組むことで、授業の立案から実践、振り返りまでの一連の流れを担当教員とともに協議し、実践的指導力を身につける。	◎		○	
保健体育科教育法Ⅰ Z331-271-03	学校の実情を踏まえた年間計画の作成について学習し、年間計画に位置づけられた任意の単元の学習指導計画(主に体育分野)を作成するとともに、模擬授業を実施する。	年間計画から任意の単元計画、さらには1時間の授業計画を内容の繋がりをもって作成することができる。また立案した授業計画を適切に実施し、学習の成果を正しく評価するための資質・能力を習得する。	◎		○	
保健体育科教育法Ⅱ Z331-271-04	学校の実情を踏まえた年間計画の作成について学習し、年間計画に位置づけられた任意の単元の学習指導計画(主に保健分野)を作成するとともに、模擬授業を実施する。	年間計画から任意の単元計画、さらには1時間の授業計画を内容の繋がりをもって作成することができる。また立案した授業計画を適切に実施し、学習の成果を正しく評価するための資質・能力を習得する。	◎		○	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 Z331-565-01	言語聴覚士を目指す人のための耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	耳鼻咽喉科ならびに頭頸部外科領域の解剖、生理、病態、疾患を理解する。	◎			
臨床心理学 Z231-283-01	主として心理・行動面の障害の治療・援助、およびこれらの障害の予防、さらに人々の心理・行動面のより健全な向上を図ることをめざす。	1.さまざまな状況における心理的危機を推察できる2.さまざまな不適応に関する心の仕組みを理解できる3.心理アセスメント、心理療法の基本的な考え方や技法を理解できる	◎			
心理測定法 Z331-285-02	精神物理学的測定法、尺度構成法、テスト理論、調査法、統計法とデータ解析法に大別し、言語聴覚士の国家試験に必要な知識の獲得、および実践的な知識の習得を目指す。	心理測定の対象や方法、その後の統計について理解し、国家試験レベルの問題を解答できるようになる。	◎			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標に向かうことができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
音響学・聴覚心理学 Z231-513-03	言語聴覚に欠かせない「音」についての基礎を学ぶ	1.音についての基礎的な概念を理解し、よく用いられる物理量の初歩的な計算ができる。2.音響分野で用いられるデシベル(dB)について、その定義や用いられ方を、実践的に習得する。3.音の周波数成分(スペクトル)について理解し、音の種類や音声における特徴を習得する。4.聴覚に対する音の特性を理解する。5.音声、特に母音の生成メカニズムを理解し、各音素についてスペクトログラムでの特徴を習得する。	◎			
言語聴覚療法管理学 Z231-513-04	言語聴覚士の職業倫理、業務遂行ならびに生涯学習を学ぶ	職業倫理、業務マネジメント、多職種連携、自身の生涯学習について理解し、卒業後言語聴覚士としてのあり方を理解できる。	◎	◎		
失語症Ⅱ Z331-512-02	失語症候群の評価と治療の実際	失語症の障害構造に即した評価とリハビリテーションについて理解する。言語聴覚士として必要な失語症に関する臨床技能を習得する。	◎	○	○	
高次脳機能障害学 Z331-512-03	言語聴覚嚥下領域において、最も難解な分野に挑む目に見えにくい障害への対応。	言語・行為・対象認知・記憶・注意・実行・情動の高次神経情報の脳内伝達経路を学び、これらの障害によって起こる失語・失行・失認・記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害の症候と病巣との関連を統合的に説明できる。	◎			
言語発達障害学Ⅲ(応用) Z331-276-04	言語発達段階や障がい特性に則した指導、訓練、支援を学ぶ(脳性麻痺などの重複障害を含む)	言語発達段階や障がい特性に則した指導、訓練、支援を理解し、対象患者に合わせ実施できる力を身につける。	◎	◎		
音声障害 Z331-513-05	神経原性発声障害を含む音声障害の理解と音声治療	これまで学んできた発声器官の解剖、生理、病学的知識および音響音声学の知識をもとに、言語聴覚学的観点から発声機構(発声の仕組みとその調節)について説明できる。	◎			
運動障害性構音障害 Z331-513-08	運動障害性構音障害に関する基礎から臨床実践までの包括的知識の習得と、適切な評価や症状分析力の獲得	運動障害性構音障害のタイプと臨床症状の特徴、各種検査技法とその評価方法、治療方法論について実践的に学習することで、実際の臨床において的確な診断・治療が施行できる。	◎	◎	◎	
摂食嚥下障害学 Z331-513-09	摂食嚥下の基本を学び、応用学習に備える	摂食嚥下障害児者のリハビリテーションを理解し、技術を身に付ける。	◎	◎		
吃音・流暢性障害 Z331-513-10	言語聴覚士が吃音・流暢性障害者に対してどのような治療、援助ができるかについて学ぶ	1.吃音・流暢性障害についての基礎的な知識(定義、発生メカニズム、症状)について知り、説明できる。2.吃音・流暢性障害と診断するための諸検査・評価法および基本的な治療法について知り、説明できる。3.吃音・流暢性障害の問題に対するセルフヘルプグループの活動の意義について知り、説明できる。	◎			
聴覚障害(小児聴覚障害・成人聴覚障害) Z331-565-02	訓練内容や対象者のニーズ・実態を中心に	1)小児聴覚障害のハビリテーションについて学び、発達、検査と評価、指導訓練について理解する。2)成人聴覚障害の種類と特性、検査と評価、指導・訓練について理解する。	◎			
視覚聴覚二重障害 Z331-565-05	視覚聴覚二重障害者の評価とリハビリテーション	視覚聴覚二重障害の種類と特性、評価と訓練について理解する。	◎			
補聴器・人工内耳 Z331-565-04	聴覚障害児者の評価とリハビリテーションおよび人工内耳の基礎と実際	1)補聴器と聴覚障害児者への適応を理解する。2)人工内耳と関連する聴覚障害の包括的理解を得る。	◎			
臨床評価学演習 Z332-513-13	成人コミュニケーション障害の評価と治療	臨床実習に必要な専門知識の補充と熟成を目指す。医療系専門職員としての基礎知識と基本的態度を学習する。	◎			

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
摂食嚥下障害学演習 Z332-283-02	摂食・嚥下障害リハビリテーションの実際	摂食嚥下リハビリテーションの実際を学ぶ。実践的な知識や技能を習得する。	◎	◎		
地域言語聴覚療法 Z331-513-14	地域リハビリテーションにおける言語聴覚士業務のあり方と実際を学ぶ	地域リハビリテーションの概念と意義、言語聴覚療法を支えるシステム、他職種連携、リスク管理を理解し、遂行できる力を身につける。	◎	◎		
応用演習 I a Z332-513-15	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
応用演習 I b Z332-513-16	コミュニケーション障害全般に関する包括的演習	これまでに習得した専門的知識と技能の総復習と、専門論文の読み方、報告書の書き方、症例報告の方法などを学習することにより、病院・施設等での臨床実習に対応できる。	◎	○		○
応用演習 II a Z332-513-17	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚臨床における必須知識の習得と実践的活用を目指す。病院の医師や看護師とのカンファレンスにおいて、根拠のある病態説明とリハビリテーション方略の説明ができる。	◎			○
応用演習 II b Z332-513-18	言語聴覚障害全般に関する包括的演習	言語聴覚療法の現場で求められる実践力の向上。基本的病態学の整理と応用的リハビリテーション技法の習得。	◎	○		○
高次脳機能障害学演習 Z332-513-20	言語聴覚障害全般に関する実践的演習	言語聴覚療法の現場で求められる実践力と応用力の向上。模擬臨床カンファレンスでの発表を通して、根拠のある病態説明とリハビリテーション・ストラテジーの提案ができる。	◎	○	○	○
健康科学総合演習 I Z322-842-01	健康科学の学びを高める	プレゼンテーションや論文作成の際に必要なとなる基本的知識と技術を習得する。	◎	○	○	
健康科学総合演習 II Z322-842-02	健康科学の学びを深める	健康科学に関する諸問題への対策を考えることができる。 社会人としての教養や態度を身に付ける。	◎	○	○	
専門セミナー I Z422-842-03	健康科学の学びの集大成	健康科学が包含する幅広い専門分野の中から、ゼミ指導教員の専門性に基づいて学びを深める。 卒業論文を執筆するための基本的なスキルを習得する。 臨床や教育の現場で必要な知識、技術、態度、倫理観を習得する。	◎	○	○	◎
専門セミナー II Z422-842-04	健康科学の学びの集大成	健康科学が包含する幅広い専門分野の中から、ゼミ指導教員の専門性に基づいて学びを深める。 卒業論文を執筆するための基本的なスキルを習得する。 臨床や教育の現場で必要な知識、技術、態度、倫理観を習得する。	◎	○	○	◎
卒業論文 Z426-845-01	卒業論文作成	健康科学に関する課題を設定し、卒業論文としてまとめる。 文献考察、実験、研究、論文執筆等の基本的なスキルを習得する。	◎	○		○
総合臨床実習 Z427-851-02	言語聴覚士の指導のもと、評価や訓練等を含む、総合的な実践力を学ぶ	言語聴覚士としての評価や訓練、対象患者や家族への説明など、総合力を身につける。	◎	◎	◎	◎
見学実習 Z227-851-01	言語聴覚士の業務の実際を見て、机上の学習の進化に繋げる	言語聴覚士としてのあり方を見学し、基本的態度や、医療や福祉領域における職業倫理を理解する。	◎	◎	◎	◎
評価実習 Z327-851-01	言語聴覚士としての評価方法を学び、机上の学習の進化に繋げる	言語聴覚士としての評価技能、記録術などを習得する。	◎	◎	◎	◎

健康科学部健康科学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康科学科のディプロマポリシー (DP)			
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	Z-DP1	Z-DP2	Z-DP3	Z-DP4
			1. 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。	2. 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解り、協働して目標決するために考え行動することができる。	3. コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。	4. 健康科学に携わる者として国際性に富んだ幅広い教養と高い倫理観を身につけている。
健康キャリア論 Z231-861-01	社会的な健康問題に対して、自ら考え行動するために、スポーツに関する職業に関する知識やキャリア形成の方法、スポーツを通じて獲得できるライフスキルについて学んでいく。	自身のキャリアをプランニングできること、幅広い職業選択をすることができる。また講義を通して、社会人としての態度・志向性についても養成し、社会の一員として協働できるようになることも目標とする。	◎	○		◎
プロジェクト演習 I Z138-852-03	企業や団体と連携して、実践的な活動を実施する。	授業で学んだ知識やスキルを実践の場で活用できる。多様な人たちとのコミュニケーションや協調性を高める。社会貢献に対する意識や論理観を醸成する。		◎	◎	○
プロジェクト演習 II Z138-852-04	企業や団体と連携して、実践的な活動を実施する。	授業で学んだ知識やスキルを実践の場で活用できる。多様な人たちとのコミュニケーションや協調性を高める。社会貢献に対する意識や論理観を醸成する。		◎	◎	○
インターンシップ Z338-861-02	企業等で体験する仕事の実際	就業を体験し、就業意識を高める。業種・業界知識や職場・職種知識を得る。就職活動に備えて自身の適正を考える。社会人としての基本的なマナーや行動力を身につける。		○	◎	
海外健康・スポーツ論 Z331-801-01	世界には紛争、犯罪、貧困、人権侵害など、様々な課題があり、これらの早急な解決が求められていることから、まず、国際協力についての基本的な知識を身に付け、国際社会に貢献するための方策を学ぶ。また国際協力における保健衛生分野の役割について、その考え方を学ぶ。様々な保健衛生を通じた国際協力の具体的事例をとりあげ、その実施方法や体制、評価について考えていく。これらを通して、保健衛生の国際協力における豊かな可能性について学ぶ。	国際社会にスポーツを通して貢献できる人材の育成をする。	○	○	○	○
手話 Z131-276-05	ろう・難聴者のコミュニケーション方法の一つである手話を通して、表現の大切さを学びながら、ろう者のろう文化・ろう社会の理解を深めていく。	ろう者や難聴者について正しく理解し、適切なコミュニケーション手段を身につける。	◎			
手話演習 Z232-276-06	ろう・難聴者のコミュニケーション方法の一つである手話を学ぶ。ろう・難聴者の問題を取り上げたドキュメンタリー鑑賞を通して、歴史的背景や様々な年代のろう・難聴者のことを知る。	ろう・難聴者と会話をしようとする態度をもち、自己紹介や簡単な会話ができる。	◎			
海外健康・スポーツ研修 Z339-852-01	実際に海外にて、日本以外の国の健康増進や医療、スポーツ環境などを体験し、国際協力における健康増進やスポーツの役割について学ぶ。	国際社会において、健康やスポーツを通して貢献できる人材の育成をする。		◎	◎	◎

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項

# 【健康栄養学科】

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
宗教学Ⅰ B111-113-01	「建学の精神」を学び、また、多様な宗教の見方・捉え方(分類法など)や、世界各地の宗教の概要・歴史を学習する。	宗教を客観的に学ぶことで高い倫理性を持った人間性を獲得し、また、世界各地の宗教を学ぶことで多様な文化・価値観を理解する。	△				
宗教学Ⅱ B111-113-02	インドで生まれた仏教・禅の教え(世界観・価値観)の基本を学び、世界各地へ伝わった歴史を学ぶ。	仏教の智慧を学ぶことで、課題発見力や問題解決力を養い、また、慈悲を学ぶことで、他者との協調性を養い、価値観の多様化した現代においても力強く生きられる柔軟性を得る。	△				
心理学Ⅰ B131-285-01	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。			△		△
心理学Ⅱ B131-285-02	心理学は、心の営みを科学的に解明しようとする学問分野で、認知、生理、発達、教育、社会、臨床など様々な領域から成り立っている。各領域の代表的な知見に触れながら、基本的な心の仕組みと働きを学ぶ。	様々な実証的研究知見に基づき、心の仕組みや働きを理解し、自己の心の働きや行動について内省したり、自己や他者の心の働きに関心向けたりすることにより、良好な人間関係を構築できるようになること。			△		△
哲学Ⅰ B131-111-01	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。				△	
哲学Ⅱ B131-111-02	哲学史、倫理学、社会哲学、科学哲学、等々、哲学という広範な学問領域の中から分野を絞り込んで概説する。各々の分野を通して、哲学という学問一般に特徴的な思考様式や方法論の理解・習得を目指す。	言葉＝ロゴスによる説得という哲学的な思考様式の特徴を理解すると同時に、その思考様式を身の周りの具体的な問題に適用できる応用力を養う。				△	
論理学Ⅰ B131-111-11	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。			○	○	
論理学Ⅱ B131-111-12	現代記号論理学を中心に、命題論理と述語論理の基礎を学ぶと同時に、それを一つの素地にして形成された言語哲学やクリティカル・シンキングといった、発展的・実践的分野についても一定の理解を得る。	命題論理と述語論理の基本となる考え方を学んで、人間の思考における論理の役割を理解すると同時に、問題演習等を通して論理的な推論実践の技術を磨く。			○	○	
文学Ⅰ B131-135-01	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。	△				
文学Ⅱ B131-135-02	日本語・日本文学について歴史的・文化的・社会的側面から解説し、様々な言語事象の背後にある原理や、古今の文学作品に描かれている諸問題について、受講生が新たな視点で理解できるよう指導する。	日本語・日本文学に関する基礎学力、日本文化をはじめとする多様なものごとを論理的に分析する力、多様な文化及び価値観について自発的に課題を立てて考える力、を修得することを目標とする。	△				
美術Ⅰ B-131-116-01	美術の歴史、人物、環境等を通し現代社会の美術の見方、考え方を学び美術の基本姿勢を修得させていく。	美術の基本的な姿勢や見方を修得する。個々の美術観を築き表現法を見出ししていく。	△				
美術Ⅱ B131-116-02	美術の基本理念に基づき多様に広がる美術事情を探り自己の美意識を広げ表現力を高めていく。	美術の理念を深め自己の造形に表現力を加え、美術の基礎の確立を計る。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
法学Ⅰ B131-211-01	法学全般の基礎、及び憲法の基礎について講義する。	法学全般に通じる基本原理、及び憲法の基本原理を理解する。		△	△		
法学Ⅱ B131-211-02	民法の基礎について講義する。	民法の基本原理を理解する。	△				
政治学Ⅰ B131-222-01	民主主義・自由主義などの原理、執政制度・選挙制度などの政治制度を学ぶ。	政治の基本原理や制度を理解する。	△				
政治学Ⅱ B131-222-02	日米英独仏など各国の政治を比較して学ぶ。国際政治の仕組みについて学ぶ。	各国政治および国際政治の基本を理解する。	△				
経済学Ⅰ B131-231-01	経済学の基礎概念をミクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	ミクロ経済学の基本的な概念を理解し、ミクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。	△				
経済学Ⅱ B131-231-02	経済学の基礎概念をマクロ経済学で扱うトピックスを中心に概説する。	マクロ経済学の基本的な概念を理解し、マクロ経済学的に経済事象を論じることができるような基礎的能力を身につける。	△				
社会学Ⅰ B131-261-01	本講義は、具体例を挙げながら、社会学が考えてきたこと、明らかにしてきたことを確認し、社会学の概念や方法を理解していきます。また、それらの知識を用いて、現代社会の諸課題についても考えます。	社会学の「問い」、「概念」、「方法」を理解すること。そして、社会学的思考を用いて、自ら現代社会の諸課題の様相について説明できるようになること。	△		△		
社会学Ⅱ B131-261-02	本講義は、社会階層、文化集団、コミュニティ等を取り上げ、社会学的な視点からそれらの集団の特徴を理解していきます。そして各集団と現代社会の諸課題の関連についても考えていきます。	各集団の特徴を理解すること。そして、現代社会の諸課題が各集団のなかでなぜ発生し、どのように顕在化していくのかについて説明できるようになること。	△		△		
教育学Ⅰ B131-271-01	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を利活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	△				△
教育学Ⅱ B131-271-02	教育学は、人がよりよく生きるために欠かせない「教育」を対象とする学問である。その特徴は哲学、歴史学、社会学、行政学などの学問を基礎とした学際的な性格にあり、本授業では教育を様々な角度から考察する。	教育学の基礎的知識や概念を理解できるとともに、その基礎知識や概念を利活用して現代の教育状況について多面的に考察でき、さらに自らが社会の形成者として教育についての意見を持つことができることを目指す。	△				△
歴史学Ⅰ B131-161-01	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。			△		
歴史学Ⅱ B131-161-02	文献資料や映像資料を駆使して、日本及び外国の歴史に関する講義を行っている。また受講生に対して、授業内では講義内容に関する感想を書かせたり、定期試験では主に論述問題を課したりしている。	歴史における文化の形成を広い視野に立って考察することによって、歴史的思考力を培い、日本や外国の成立の歴史的過程と特質を把握させて、近代市民としての自覚を深める。			△		
地理学Ⅰ B131-181-01	地理学の基礎的な知識を、国内外の社会の中にみられる具体的な実例を挙げながら紹介する。社会や自然を構成する多様な要素を取り上げ、それらの相互関係や、分布の差異を示すことで、地理学的なものとの考え方をも身につける。	社会の中にみられる諸現象を地理学的な観点から説明することができる。世界あるいは日本の中にみられる多様性と地域性について理解することができる。			△		

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
地理学Ⅱ B131-181-02	地理学が扱う多様な課題の中から特定のものを取り上げ、その問題を関連する事象とともに追究する。このことによって、取り上げる課題についての理解を深めるとともに、地理学的なものとの見え方についても深化させる。	取り上げる地理学的課題についての基礎的な知識事項を述べるができる。取り上げる地理学的課題を通じて、世界・日本の社会・自然のあり方について、論理的な考察が行えるようになる。			△		
数学Ⅰ B131-323-01	数学の問題を解くことを通して、数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。		△		△	△
数学Ⅱ B131-323-02	数学の問題を解くことを通して、より進んだ数学的な手法と論理的思考を学ぶ。	社会で生きていく上で必要な、より進んだ数学的手法と論理的思考の習得を到達目標とする。		△		△	△
統計学Ⅰ B131-603-01	統計の問題を解くことを通して、統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				△	
統計学Ⅱ B131-603-02	統計の問題を解くことを通して、より進んだ統計的な手法と統計的な論理的思考を学ぶ。	社会生活に役立つ、より進んだ統計的手法と統計的な論理的思考の習得を到達目標とする。				△	
物理学Ⅰ B131-420-01	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。				△	
物理学Ⅱ B131-420-02	身近な現象を題材にして、生活や社会に密接に関わっている「物理」を学ぶ。	なぜ?という疑問を持ち、それを解決するために論理的に考える力を身につける。				△	
化学Ⅰ B111-420-11	健康栄養学科の化学系科目を理解するための基礎学習	原子の構造、濃度、酸塩基等が理解できること。	◎				
化学Ⅱ B131-420-12	化学の基礎を学びながら、日常生活に関わる身の回りの物質を化学的立場から捉え、化学が果たしている役割を考えます。「なぜこうなるの?」といった好奇心から出発して、化学の面白さを伝えます。	素朴な疑問をもとに、文系の学生にとっての化学に対する苦手意識を軽減します。化学的なモノの考え方を修得し、科学リテラシーや論理的思考力を身につけることを目標とします。	◎	○			
生物学Ⅰ B111-420-21	われわれヒトを含む動物の体のしくみを分子レベル、細胞レベル、全身(生体システム)レベルで学び、生命活動の基本原則と様々な生物学的基本概念を理解する。	単に生物学の基礎知識を身に付けるだけでなく、得た知識を使って自分や他の生物の体内で起きていることを人に説明できるようにする。	◎	○			
生物学Ⅱ B131-420-22	身近なできごとやさまざまな社会問題と生物学の関わりを知り、生物を理解するために必要な教養レベルでの基礎的知識と概念を学ぶ。	社会生活の中で直面する様々な医療問題や環境問題などを正しく理解し、また自分で考えるために必要な基礎的な生物学的知識を身につける。	◎	○	△		
情報科学Ⅰ B111-601-01	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークの知識を習得する。	社会生活に役立つコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的課題の習得を到達目標とする。				△	△
情報科学Ⅱ B131-601-02	コンピュータを扱うことを通して、コンピュータとネットワークのより進んだ知識を習得する。	社会生活に役立つより進んだコンピュータとネットワークの知識と、その倫理的課題の習得を到達目標とする。				△	△
情報科学Ⅲ B131-601-03	コンピュータを通して、データサイエンスに関してリテラシーレベルよりも一歩進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、リテラシーレベルよりも一歩進んだ知識と、その倫理的課題の習得を到達目標とする。				△	△
情報科学Ⅳ B131-601-04	コンピュータを通して、データサイエンスに関してより進んだ知識を習得する。	データサイエンスに関して、より進んだ知識と、その倫理的課題の習得を到達目標とする。				△	△
仏教と現代社会Ⅰ B231-112-01	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。	△				
仏教と現代社会Ⅱ B231-112-02	現代社会の諸問題に関する仏教からの提言	仏教的価値観を対立軸として、現代社会の価値観や諸課題を考える力を育てる。	△				
禅と人間Ⅰ B231-112-11	禅の概要および禅宗の特徴を概説し、禅語(公案)を通じて禅の思想を解説するとともに、坐禅の実習によって禅の修行を体感する。	坐禅や公案の学習などの禅の修行生活の重要な要素を通じて、禅の本質を理解する。	○				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを實踐できる
禅と人間Ⅱ B231-112-12	中国および日本における禅宗の歴史や思想を概説し、禅の影響のもと成立した茶道・絵画・建築・陶磁器・書などの日本独自文化を解説する。	禅と日本文化との関係を具体的に理解し、禅によって培われた日本独自の美意識や感性を体得する。	○				
生命に関する諸問題Ⅰ B231-118-01	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	○		△		
生命に関する諸問題Ⅱ B231-118-02	「生と死」という解決し難い古来からのテーマについて、自然・人文・社会科学などの多様な視点・観点からアプローチする。	総合的に問題を捉えて解決したり、創造性を持って新たな課題を見出したりする力をつける。自分なりの「生命観」・「人生観」・「死生観」を築く。	○		△		
人間行動の理解Ⅰ B231-285-01	心理学で扱う理論や事象は実験や調査で得られたデータに基づいている。本講義では、実際に実験を行い、仮説検証の考え方からデータの収集方法、結果の解釈に至るまで、心理学の基本的な方法論について理解を深める。	心の仕組みや働きを明らかにするための様々な方法論を理解したうえで、科学的な手続きと正確なデータ収集の重要性を認識し、さらにそれらをまとめて論理的な報告書の作成ができるようになること。				△	
人間行動の理解Ⅱ B231-285-02	フロイトの精神分析の口語版といわれる「交流分析」の理論と実践について学ぶ。交流分析は、パーソナリティ理論やコミュニケーション理論を含む心理療法のひとつであり、自己洞察を繰り返すことで、より良い人間関係と自己の生き方を築くことを目指す。	自己理解と他者理解を深め、よりよいコミュニケーションと自己の問題点の把握と改善へつなげること。		△			△
人間の尊厳と平等Ⅰ B231-261-01	本授業では、これまでに人間社会が形成してきた人権について、様々な歴史的事例や条文などの学びを通して、人権の基礎を習得する。	人権の成立過程や現代における課題を学び、一人一人の人間性を尊重し、他者と協調できるようになる。また、差別について批判的精神を養う。	△				
人間の尊厳と平等Ⅱ B231-261-02	本授業では、社会福祉の成立過程を学びながら、「福祉国家」や「社会福祉事業」への理解を深め、社会福祉の基礎を習得する。	社会福祉の学びを通して、一人一人の人間性を尊重し、多様な価値観を理解できるようになる。そして、自ら社会貢献が積極的に可能になることを目指す。	△				
日本の文化と社会Ⅰ B231-162-01	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。	○				
日本の文化と社会Ⅱ B231-162-02	日本の歴史・文学・ことばを中心に、人々がそれらの事象とどのように関わってきたのか、どのような変化をとげてきたのか、を学ぶ。	科学的な探究の精神に基づいて、日本における、社会と文化と人間に対する理解を深め、複眼の視座を涵養する。	○				
アジアの文化と社会Ⅰ B231-163-01	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	△				
アジアの文化と社会Ⅱ B231-163-02	文献資料や映像資料を駆使して、中国の芸能・小説などの伝統文化、及び近現代の政治・社会史に関する講義を行う。また定期試験などを通して受講生に論述の機会を設けている。	日本人にとって「他者」である中国を多面的に理解することを目指す。その上で、筋道を立てた論述能力や課題発見力、問題解決力を涵養することを目指す。	△				
ヨーロッパの文化と社会Ⅰ B231-165-01	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	△				
ヨーロッパの文化と社会Ⅱ B231-165-02	ヨーロッパの思想・文化の理解	ヨーロッパ諸国の事例を学習することで、未来の日本社会構築の参考にする。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
英語圏の文化と社会 I B231-804-01	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解できる。	△				
英語圏の文化と社会 II B231-804-02	英語圏の文化的な側面と社会的な側面について講義	英語圏の文化や英語の使用における社会的な背景について理解して説明できる。	△				
人間と環境 I B231-646-01	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。	◎		△		
人間と環境 II B231-646-02	社会・地球・自然・食など様々な角度から人間と環境の関わりについて学んでゆきます。	人間をとりまく種々の環境についての正しい知識を学び、玉石混淆の情報から正しい情報を読み解く力を身につけることができる。	◎		△		
情報と社会 I B231-622-01	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会における情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。			△	△	
情報と社会 II B231-622-02	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点を習得する。	ネットワーク社会におけるより進んだ情報の扱い方と倫理的問題点の習得を到達目標とする。			△	△	
産業と科学 I B231-118-01	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。	△		△		
産業と科学 II B231-118-02	生活に関連した産業と科学技術に関する話題を、複数の視点から多角的に分析し、解説する。	産業と科学技術に関する知識を学び、それを生かして生活における諸問題に対処できるような柔軟な思考力を身につける。	△		△		
ソフトウェア概論 I B231-605-01	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、コンピュータの多様な使い方を習得する。	コンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。				△	
ソフトウェア概論 II B231-605-02	コンピュータ・プログラミングの課題を解くことを通して、より進んだコンピュータの多様な使い方を習得する。	より進んだコンピュータ・プログラミングとコンピュータの多様な使い方の習得を到達目標とする。				△	
英語 I a B114-141-01	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	基礎的な英語表現の聞き取りと基礎的な会話表現ができる。	○				△
英語 II a B114-141-02	英語のリスニングと英会話を中心とした授業	少し発展的な英語表現の聞き取りと会話表現ができる。	○				△
英語 I b B114-141-03	英語の読解を中心とした総合演習	基礎的な英文を読んで内容が理解できる。	○				
英語 II b B114-141-04	英語の読解を中心とした総合演習	少し発展的な英文を読んで内容が理解できる。	○				
英語 I c B134-141-05	英作文・英文法を中心とした総合英語	基礎的な英文を書いて自己表現ができる。	○				
英語 II c B134-141-06	英作文・英文法を中心とした総合英語	少し発展的な英文を書いて自己表現ができる。	○				
ドイツ語 I (基礎) B134-145-11	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△				
ドイツ語 II (基礎) B134-145-12	ドイツ語の基礎力養成	基本的なドイツ語構造の理解	△				
中国語 I (基礎) B134-147-11	発音の習得から始めて、入門時に必要とされる常用単語及び初歩的な文型を学び、未習外国語である中国語の学習の基礎を固める。常に双方向の授業を心がけ、中国語運用能力の基礎を作る。	中国語の発音を習得し、中国語のローマ字表記を読めるようにする。併せて、初歩的な常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な中国語を使えるようにする。	△				
中国語 II (基礎) B134-147-12	中国語 I で学んだ中国語の基礎の上にさらにステップアップを目指す。発音の習熟度をより高め、語彙及び理解でき、かつ使用できる文型を増やすことによって、中国語の運用能力を高める。	中国語の発音をより確実なものにし、より多くの常用語彙、重要文型を学び、中国語の構造に対する理解を深め、初歩的な中国語運用能力を身につけるようにする。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
フランス語Ⅰ(基礎) B134-146-11	綴りと音の関係を理解し、フランス語文の音読を可能にする。基本文型を暗記し、フランス語のリズムを覚える。	フランス語文を単独で音読できるようにし、挨拶や買い物などの簡単な日常会話に慣れる。	△				
フランス語Ⅱ(基礎) B134-146-12	人称の概念を理解し、基本動詞の活用を学習する。辞書を利用して平易なフランス語文を訳読し、暗記する。	会話文や説明文を、辞書を用いて単独で読解する。人物の会話から、フランス人の基本となる物の考え方を理解する。	△				
韓国語Ⅰ(基礎) B134-148-11	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△				
韓国語Ⅱ(基礎) B134-148-12	初めて学ぶ人を対象に韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。韓国語の文字と発音を始めとし、日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	「読む、書く、聞く、話す」の4機能を総合的に学習し、韓国語の基本的な構造について理解することを目標とする。	△				
スペイン語Ⅰ(基礎) B134-149-11	初めて学ぶ人を対象にグローバル言語の1つであるスペイン語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を学び日常生活で使える簡単な会話を学習することとする。	スペイン語の常用単語及び初歩的な文型を習得し、簡単な日常会話で使えるようにする。	△				
スペイン語Ⅱ(基礎) B134-149-12	スペイン語Ⅰ(基礎)で学んだスペイン語のさらなるステップアップを目指す。単語の理解や発音の習熟度をより高め、かつ使用できる文型を増やすことによって、スペイン語の運用能力を高める。	スペイン語の発音をより確かなものにし、多くの常用単語、重要文型を学び、初歩的なスペイン語運用能力を身につける。	△				
日本語Ⅰa B114-139-01	高度な文法力や読解力を身につけることを目的に論理的な文章を読む。	論理的な文章が読めるようになる。また、教材を通して日本社会への理解を深めることができる。	◎				△
日本語Ⅱa B114-139-02	読解力を向上させるために、論理的な文章だけでなく、エッセイなども取り上げて読む。	様々なタイプの文章を、一人で読めるようになる。また、内容に関して意見や感想をまとめることができる。	◎				△
日本語Ⅰb B114-139-03	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	留学生活に必要な聴解力・会話力を身につけ、わかりやすい発表ができるようになる。	◎			○	
日本語Ⅱb B114-139-04	日本語の聴解、会話、口頭発表を扱う。	日本社会で起きている話題について聴き取り、資料を基に論理的に意見が述べられるようになる。	◎			○	
日本語Ⅰc B114-139-05	論理的な文章をわかりやすく書くための基礎的な技法を学ぶ。	事実と自分の考えを書き分ける力、資料に基づいて自分の考えを書き進める力などを身につけることができる。	◎		○	○	
日本語Ⅱc B114-139-06	関心のあるテーマについて問題を見出し、資料を用いてその答えをレポートとしてまとめる。	レポートを書くことを通して、読み・書きの高度な日本語力を身につけることができる。	◎				
英会話Ⅰ B134-141-11	外国人教員による英会話演習	簡単な英会話で自己表現ができる。	○				
英会話Ⅱ B134-141-12	外国人教員による英会話演習	少し発展的な内容の英会話で自己表現ができる。	○				
英会話Ⅲ B234-141-21	外国人教員による発展的英会話演習	日常的な内容の英会話で自己表現ができる。	○				
英会話Ⅳ B234-141-22	外国人教員による発展的英会話演習	発展的な様々な内容の英会話で自己表現ができる。	○				
メディア英語Ⅰ B134-141-17	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで基本的な表現が理解できる。	△				
メディア英語Ⅱ B134-141-18	ビデオや映画等のメディアを使った英語演習	映画やニュースなどで少し発展的な表現が理解できる。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を實踐できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し、實踐できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを實踐できる
メディア英語Ⅲ B234-141-27	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで多くの表現をそのまま理解できる。	△				
メディア英語Ⅳ B234-141-28	ビデオや映画等のメディアを使った発展的英語演習	映画やニュースなどで発展的な内容がそのまま理解できる。	△				
英語表現法Ⅰ B134-141-15	英作文や会話などの英語による自己表現演習	基礎的な英語を使って自己表現ができる。	○				
英語表現法Ⅱ B134-141-16	英作文や会話などの英語による自己表現演習	少し発展的な英語を使って自己表現ができる。	○				
英語表現法Ⅲ B234-141-25	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。	○				
英語表現法Ⅳ B234-141-26	英作文や会話などの英語による発展的自己表現演習	少し発展的な英語表現を使って自分の意見や考えを表現できる。	○				
英語読解法Ⅰ B134-141-13	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で様々な英文の内容が理解できる。	○				
英語読解法Ⅱ B134-141-14	様々な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、自分で少し発展的な英文の内容が理解できる。	○				
英語読解法Ⅲ B234-141-23	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な英文の内容が理解できる。	○				
英語読解法Ⅳ B234-141-24	発展的な英文を読んで理解する読解演習	辞書を使って、様々な発展的な英文の内容が理解できる。	○				
実践英語Ⅰ B134-141-31	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で基礎的な問題の解答ができる。	○				
実践英語Ⅱ B134-141-32	TOEIC等の検定試験対策の演習	TOEIC等の検定試験で少し発展的な問題の解答ができる。	○				
実践英語Ⅲ B234-141-41	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で発展的な問題の解答ができる。	○				
実践英語Ⅳ B234-141-42	TOEIC等の検定試験対策の発展的演習	TOEIC等の検定試験で少し高度な問題の解答ができる。	○				
ドイツ語Ⅲ(読解) B234-145-21	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化	△				
ドイツ語Ⅳ(読解) B234-145-22	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の読解力強化	△				
ドイツ語Ⅲ(表現) B234-145-31	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化	△				
ドイツ語Ⅳ(表現) B234-145-32	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の表現力(作文力)強化	△				
ドイツ語Ⅲ(総合) B234-145-41	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化	△				
ドイツ語Ⅳ(総合) B234-145-42	中級ドイツ語能力養成	中級のテキストを用いたドイツ語の運用能力強化	△				
ドイツ語会話Ⅰ B234-145-51	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成	△				
ドイツ語会話Ⅱ B234-145-52	中級ドイツ語能力養成	ドイツ語の会話能力の養成	△				
中国語Ⅲ(読解) B234-147-21	1年次に習得した中国語を基礎に、簡単な文章を読むことによって中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の読解力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△				
中国語Ⅳ(読解) B234-147-22	中国語Ⅲ(読解)を受けて、様々な文章を読むことによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の読解力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の文章の読解力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを實踐できる
中国語Ⅲ(表現) B234-147-31	1年次に習得した中国語を基礎に、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の表現力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△				
中国語Ⅳ(表現) B234-147-32	中国語Ⅲ(読解)を受けて、中国語の様々な表現を学んで中国語作文の練習をすることによって、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の表現力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、中国語の表現力を高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△				
中国語Ⅲ(総合) B234-147-41	1年次に習得した中国語を基礎に、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、常用語を身につけ、中国語の文法構造等に対する理解を深め、中国語の運用能力をレベルアップして資格取得などに役立てる。	300語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△				
中国語Ⅳ(総合) B234-147-42	中国語Ⅲ(総合)を受けて、「読み、書き、聴き、話す」練習を通して、使える常用語を増やし、中国語の文法構造等に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力をさらにレベルアップして資格取得などに役立てる。	600語程度の常用単語を身につけ、中国語の文法構造に対する理解を深め、「読み、書き、聴き、話す」といった中国語の運用能力を全体的に高める。併せて、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△				
中国語会話Ⅰ B234-147-51	発音の練習を重視し、ペアワークによる会話練習を行い、中国語の会話力を向上させる。併せて、作文と翻訳の練習も行い、中国語の総合的な運用能力を高める。	1年次で学んだ中国語の発音をより正確なものにし、あいさつなどの簡単な言葉から日常用いる初歩的な会話ができるようにする。中国政府公認の中国語検定試験HSK2級の合格を目指す。	△				
中国語会話Ⅱ B234-147-52	中国語会話Ⅰを受け、引き続き発音練習を重視し、ペアワークによる会話をほぼ毎回行って、会話力をより向上させる。併せて作文と翻訳の練習にも力を入れ、中国語の総合的な運用能力を高める。	中国語をより正確に発音できるようにし、より多くのことを表現できるよう会話力を高める。会話力と同時に、作文能力や読解力も向上させ、中国政府公認の中国語検定試験HSK3級の合格を目指す。	△				
フランス語Ⅲ(総合) B234-146-41	短文の反復や言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の表現を確実に身につける。	フランスで生活するつもりになって、フランス語でフランス人に意志を伝えるつもりで、フランス語会話に集中する。	△				
フランス語Ⅳ(総合) B234-146-42	練習問題による言い換えにより、実生活に結びついたフランス語の構造を確実に身につける。	フランス語の基本的な例文を覚えると同時に、日本語からフランス語への言い換えも行えるようにする。	△				
韓国語Ⅲ(読解) B234-148-21	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象にし、レベルアップした基礎文法を学ぶ。コミュニケーションの訓練とともに、文法と構文の理解、表現力を身につける。また、旅行やビジネス場面でよく使われる表現を学ぶ。	韓国語の基礎文法を踏まえ、より豊かな基礎会話力を養うことを目標にする。徐々に語彙・文法項目を増やしていき、韓国語で書かれた文章に対する理解力を高める。	△				
韓国語Ⅳ(読解) B234-148-22	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した人を対象にし、中級を目指して実践的な表現を学ぶ。定型表現の学習は、ものの描写、要求・依頼・主張など様々な場面にふさわしい構文と語彙を習得し、言語運用力を養う。	中級レベルの文法や語彙を学び、韓国語としてより自然で円滑なコミュニケーションができるようにする。より豊かな言語表現力を養い、韓国語文章に対する「読む・書く」能力の上達を目標にする。	△				
韓国語Ⅲ(表現) B234-148-31	文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基本文の作り方を練習する。そのために、基本文法と単語の学習を行う。これに基づいて、実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
韓国語Ⅳ(表現) B234-148-32	韓国語の文字を覚えた学生を対象にし、授業計画に基づく韓国語の基礎知識と運用力を養成する。「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。韓国語圏の世界の諸相を理解し、国際的な視野を広める。	韓国語の文字と発音を習った学生を対象とし、基礎的な文の作り方を練習する。そのために、基本文法と基礎単語の学習を行う。実際の現場で使われる多様な文の構造及び会話表現の習得を目標とする。	△				
韓国語Ⅲ(総合) B234-148-41	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象にし、ハングル検定試験5級に合格するために必要な発音の仕組み、基本文法などを学習していく。文法事項や語句、日常会話文等を繰り返し練習し、ハングル検定試験5級合格に必要な基本的な能力を身につける。	基本文法については韓国語Ⅰ・Ⅱで学習した復習から始め、ハングル検定試験5級合格のために必要な発音と文法を学び、自ら学習できるようにする。基本文法と語句、日常会話文などの反復学習を通して習得していく。また練習問題と課題を通して、その定着と更なる応用発展を図る。	△				
韓国語Ⅳ(総合) B234-148-42	ハングル検定試験5級に合格するため、基本文法、語句、日常会話文などを学習する。また11月に実施されるハングル検定試験に向けて実際の過去問を用いて練習する。適宜、試験に必要な発音や文法、語彙に関する解説を行う。	ハングル検定試験5級に合格する。あるいは5級に挑戦できる能力を身につけることを目標とする。すでに5級を取得した学生にとっても、次のステップアップにつながる足場を固める場となることを目標とする。	△				
韓国語会話Ⅰ B234-148-51	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	ハングルの読み書きが確実にできるようになる。基礎的な文法を身につけ、あいさつ、自己紹介、身の回りのことについて自分の言いたいことを伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。	△				
韓国語会話Ⅱ B234-148-52	韓国語の読み書きができ、文章の作成が出来るレベルに達していても、会話ができるとは限らない。ペアワークやグループワークを多く取り入れ、学んだ表現を使った会話文を用いて実際に話してみるにより、積極的に話す機会を与える。	約700個の単語をもとに、初級レベルに必要な会話のスキルを身につけるようになる。その上で日本語とは異なる韓国語特有の会話の仕方を学習し、その背景にある文化についても考察できるようにする。	△				
韓国語会話Ⅲ B234-148-53	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の日常的な会話で自己表現ができる。	△				
韓国語会話Ⅳ B234-148-54	ネイティブによる発展的韓国語演習	韓国語の発展的な様々な内容の会話で自己表現ができる。	△				
スペイン語Ⅲ(読解) B134-149-21	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形などさらにレベルアップした内容を学んでいく。	さまざまな時制を含むバリエーションに富んだ文章が理解できるようになる。	△				
スペイン語Ⅳ(読解) B134-149-22	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、幅広い種類の文章に慣れる。	辞書を使ってやや長い文章が理解できるようになる。	△				
スペイン語Ⅲ(表現) B134-149-31	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去や未来の時制といった中級程度の内容を学ぶ。	あらゆる時制を使いこなし、自分の気持ちがある程度自由に表現できるようになる。	△				
スペイン語Ⅳ(表現) B134-149-32	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。比較表現や命令形など、表現の幅を広げていく。	辞書を使いながら、大きな支障なくコミュニケーションが取れるようになる。	△				
スペイン語Ⅲ(総合) B134-149-41	スペイン語Ⅰ、Ⅱを学んだ学生に向けた授業。過去形など中級程度の内容を学び、演習を多く行う。	会話や文字などさまざまな手段で、自分の気持ちがある程度自由に表現することができる。	△				
スペイン語Ⅳ(総合) B134-149-42	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを学んだ学生に向けた授業。命令形や反実仮想といった上級レベルの表現を学ぶ。	辞書を使えば大きな支障なく相手とスムーズなやり取りができる。	△				
スペイン語会話Ⅰ B134-149-51	先生や学生どうしでのコミュニケーションを通して、正しい発音を身につけつつ挨拶など基礎的な表現を学ぶ。	挨拶、簡単な自己紹介、日常の動作といった基本的な表現を覚え、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
スペイン語会話Ⅱ B134-149-52	スペイン語会話Ⅰを履修した学生を対象に、嗜好や予定などさらにバリエーション豊かな表現を学ぶ。	繰り返し練習を重ね、辞書を使ってさらに複雑なコミュニケーションが取れるようになる。	△				
スポーツ科学Ⅰ B115-592-01	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	△			
スポーツ科学Ⅱ B115-592-02	運動の実践により、生涯健康の基礎作りを目指す。運動の楽しさや健康の価値・意味を理解し自己管理能力を養う。	運動習慣の確立により肉体的、精神的、社会的な健康を獲得する。学生同士の協調性や連帯感を理解させ、豊かな人間性を高めていく。	○	△			
スポーツ科学Ⅲ B235-592-03	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	○	△	△		
スポーツ科学Ⅳ B235-592-04	生涯健康の応用と発展を目的とする。運動習慣の継続と生涯健康スキルを発展させる。	趣向や目的に適した種目を選択し、個人能力に応じたレベルでスポーツ実践する。「生涯健康の理論と実践の統合」を目標とする。	○	△	△		
海外事情Ⅰ B139-852-01	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。	△				
海外事情Ⅱ B139-852-02	カナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカ、韓国、台湾の各国の提携校でホームステイ先や学生宿舎に滞在しながら、語学力を磨いたり現地の文化を経験したりする。	渡航先の大学で開講される授業やプログラムを通して、語学力を向上させる。幅広く異文化に触れることで、多様な価値観や考え方を理解できるようになる。	△				
海外事情Ⅲ B139-852-03	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。	△				
海外事情Ⅳ B139-852-04	マレーシアの提携校で実施されるワークショップや文化交流に参加し、提携校の学生や各国の留学生と協力して共通の課題に向き合うことで、グローバル社会に役立つコミュニケーションと多文化共生に対する理解を深める。	研修先の学生や教員との交流を深めることで、現地の事情や文化への理解を深めることができる。研修先での国際経験を通じて、グローバル社会で活躍できる人材となる基礎を身につける。	△				

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを 実践できる
医療福祉概論 X331-262-01	医療・福祉・介護・保健分野における役割と機能について学ぶ。	医療、福祉・介護、保健制度等の概要を理解し、社会全体の動向との関連を読みとることができるようになる。	◎		△		
健康心理学 X231-283-02	人間の心と体の健康を維持、増進、予防し、疾病を誘発する危険因子を発見し、それを防除するにはどうすべきかを学ぶ。	健康心理学の基礎的知識およびその応用領域を理解し、説明できるようになる。対象者の心理状態を把握し、適切に対応する知識・技術・コミュニケーション力を取得する。	○				
公衆衛生学 X311-583-03	公衆衛生学に関する基本的知識を得る。	各種保健統計調査や公衆衛生活動、生活環境により引き起される健康障害、社会保障制度などについて理解できるようになる。	◎	△		○	
公衆衛生学実習 X433-582-04	データ収集および統計処理、環境衛生測定等の手順や、得られた結果の考え方を学ぶ。	環境衛生に関する測定や疫学指標を用いた健康評価等を行い、考察することができるようになる。			○	◎	
健康管理概論 X111-583-05	生活習慣病の基本的項目および健康管理の方法等を理解する。	生活習慣病の原因、病態、治療、予防法、健康の概念・評価、健康増進の方法を個人および社会レベルで理解できるようになる。	△	○		◎	
人体構造学 X111-481-06	人体全体の構造について知識を深めていく。	正常な人体の個体としての細胞・遺伝子レベルから組織・器官レベルまで、理解する。	○			△	
生体機能学 X111-594-07	正常な人体の機能について学ぶ。	生体機能システムの相互関係を理解する。	◎			△	
人体構造機能学実験 X213-481-08	人体形態学の学びをもとに、顕微鏡を用いて組織標本を観察し、組織学の知識を深める。	人体の構造成分を組織学を通して理解し、病態の理解にも発展させる足掛かりとする。ラットの解剖により、哺乳類に共通した形態の知識を深める。生体における血圧、脈拍、心拍数、呼吸数などが変化する意義を理解する	○				
生化学総論 X111-594-09	ヒトの細胞の構造成分と構造を学び、摂取した栄養素が体内に入り細胞でどのように代謝、変換され利用させるのか理解し、個体の恒常性(ホメオスタシス)のシステムを学ぶ。	生物の基本的な単位(細胞)の構造成分である糖、脂質、アミノ酸・タンパク質の構造と機能、代謝経路について理解する。生体成分の代謝過程と栄養素との関係を理解する。個体の恒常性を維持している仕組みを理解する。	○				
生化学各論 X211-594-10	栄養学を理解するためには、ヒトの細胞の成り立ち、栄養素の代謝、およびその働きについての理解が必須である。本講義では栄養学の基礎としての生化学に主眼をおき、そのシステムを理解する。	管理栄養士に必要な栄養素の吸収、代謝、分解について理解する。ヒト生体における栄養素の機能について、分子、細胞、組織レベルで理解し、栄養指導の基礎知識を得る。	◎	○		◎	
生化学基礎実験 X213-594-11	実験の原理や方法論を学び、結果の解析をとおして、生体成分の定性、定量分析、および生体反応に関連した酵素反応について、より深く理解できるようになることを目的とする。	安全に実験を行うための知識と注意事項を学び、適切に実験が行えるようになる。結果の意味について意欲的に調査探求し、レポートの作成ができるようになる。	○				
生化学応用実験 X233-594-12	生体から構造成分を分離、精製し、基礎実験で学んだ定性、定量法がどのように利用されるのか理解する。また生化学的反応にもついた一般的な臨床検査の原理について学ぶ。	生体および食品の成分を同定・定量分析し、分析結果を説明できるようになる。	○				
病理学 X231-492-13	病理学の総論を学ぶ。	栄養士として臨床に役立つ内容に重点を置き、疾病に対しよりよく理解する。	◎			△	○
薬理概論 X331-474-14	医薬品や機能性を有する食品の生体に対する効果、また食品が医薬品の効果におよぼす影響について学習する。	講義で学んだ薬物の作用機構や安全な用法、またある種の食品との併用による影響について、その機構を含め考察し、説明できることを到達目標とする。	△			△	

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを實踐できる
生活習慣病論 X231-594-15	代表的な生活習慣病をとりあげて、原因、特徴、治療について学び、病気の予防ができるようにする。	生活習慣病の原因を理解し、その予防策が実施できる。	◎				
健康スポーツ医学 X131-592-16	老化やそのメカニズム、高齢者の疾患について理解し、健康を維持するための運動と食生活の役割を理解する。	超高齢化社会における運動と食生活の役割を理解する。	◎				
医科学Ⅰ X231-594-17	疾患別病態生理を学ぶ。	代謝性疾患、内分泌疾患、循環器系疾患など生活習慣病について学ぶ。	◎			○	△
医科学Ⅱ X331-531-18	疾患別病態生理を学ぶ。	消化管疾患について学ぶ。	◎			○	△
医科学Ⅲ X431-503-19	疾患別病態生理を学ぶ。	脳神経系疾患、呼吸器系疾患、腎臓疾患、血液疾患、免疫・アレルギー系疾患、骨代謝疾患について学ぶ。	◎			○	△
病原微生物学 X231-495-20	食中毒のみならず、主要な感染症を理解するための基本的な知識の習得をねらいとしている。	微生物の生態や特性を把握し、さらに食中毒や感染症などの疾病に係わる現象を科学的に理解するための基礎知識を習得する。加えて衛生概念や滅菌・消毒の概念などについても理解する。	○		△		
食品成分学 X111-388-21	栄養素や機能性成分を含む様々な食品に含まれる植物性食品、動物性食品素材を対象に、調理や加工、配合などの過程における成分の特性、変化を総合的に学ぶ。	管理栄養士をはじめ食品関連分野で必要な基礎と研究方法を身につけることができる。日常利用している食品成分の特性、変化を総合的な視野から考察する力を養うことができる。	◎				
食品基礎分析実験法 X213-388-22	食品成分の分析法に関する基礎を理解する。	食品成分の分析法の知識をもとに実践できるようにする。	○	◎	◎	○	
食品機能評価法 X111-388-23	食品機能評価法の基礎、食品の三次機能、いわゆる生体調節機能として、抗酸化能をはじめ、がんや各種血管障害、肥満、アレルギー等に対する予防や軽減化などに関わる食品成分についての評価法を学ぶ。	食品成分の分析法や機能の評価法について、解説し説明できる。			◎		
食品応用分析実験法 X333-388-24	食品の機能性・食品成分の生体における作用に関する基礎を理解する。	食品の機能性・食品の生体における作用を調べる実験法を学ぶ。	○	◎	◎	○	
食品機能化学 X231-388-25	食品の1次～3次機能(栄養機能、嗜好機能、生体調節機能)に関わる成分について、化学的見地から学ぶ。	主要な食品成分の栄養機能、嗜好機能、生体調節機能について、解説し説明できるようにする。		◎			
食品健康科学論 X331-388-26	食と健康を科学的根拠に基づいて考察する。	食と健康を食品成分との相互作用の観点から理解を深める。	○	◎	◎	○	
調理学 X111-594-27	多様な物質が調理過程で科学的、物理的、組織的に変化することを理解して、好ましい食べ物をつくりだすための調理条件を身につけるとともに実践時に応用できる力を養うことを目的とする。	調理プロセス全般を科学的に理解し、実践時に応用できるようにする。	○	◎	○		
調理科学実験 X113-594-28	調理の過程で起こる現象を実験を通して、科学的・物理的・生物学的・数学的などさまざまな視点から観察し、科学的思考能力を養い、講義では理解しにくい調理学の理論をより深く理解する。	実験を通して、調理過程における物質の変化を科学的に理解させ、学生の理解力、観察力および科学的思考を養うことを目標とする。	○	◎			
基礎調理実習 X113-594-29	調理理論を調理実習により実践し、食品の調理特性の確認と調理技術とを関連づける。	基礎となるひとつひとつの調理操作をしっかりと身につけるとともに、食材の選び方・扱い方、栄養・機能性成分の生かし方、調理のコツについて学び、応用する実践力を養う。	○	◎			
応用調理実習 X113-594-30	基本となる調理を、確実に自分のものとするため応用調理実習を体得する。	食材とその栄養的価値、調理法によるその違いなどを考慮した献立や応用献立へ展開できるようにする。	○	◎			
食品安全管理学 X211-388-31	食品安全に関する基礎を理解する。	食品を安全に取り扱う専門知識を身に付け、実践に結び付けられるようにする。	○	◎	◎	○	

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
食品安全学実験 X213-388-32	実験を通じて食品衛生法をはじめとする衛生規範を学び、食品衛生の問題点を把握し対処法を理解する。	食品の安全性に関する基礎知識と実験手法の習得を目的とする。	○	◎	◎		
基礎栄養学 X111-594-33	栄養素とは何か、その構造、機能について基礎的な理解を得る。栄養素の欠乏、過剰により引き起こされる疾患について知識を得る。	栄養学について基礎的な学習をすることで、管理栄養士としての栄養および食事指導、献立作成の理論的根拠を説明できるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
栄養学実験 X213-594-34	基礎栄養学の講義で学習した内容について、みずから手を動かして、体験することによって、より理解を深める。栄養素について定性実験および定量実験を行う。	栄養学に携わるものとして必須である定量実験の基礎的手法について習熟し、実験ノートを作成できるようになる。	○	◎		○	
栄養生理学 X231-594-35	食・栄養に関連する深い体の生理や健康の概念を理解する。	食生活と体の生理がどんなふうに関連しあっているかを考えることができる。	○			○	
応用栄養学 X211-594-36	個人や集団の栄養を適切に管理(栄養管理)する考え方を学習。	ライフステージや特殊環境における個人や集団の身体状況・栄養状態を食事摂取基準2020年版を活用して正しくアセスメントできる。	◎	○	○	△	◎
母子栄養学 X211-594-37	妊婦・授乳婦、小児の栄養管理とケアを学ぶ。	母子の身体特性、栄養状態を把握し、対象に応じた栄養管理、ケアについて説明できる。	○	△	○	○	○
加齢栄養学 X231-594-38	高齢者の生理機能、免疫機能、栄養代謝の変化などの特徴と栄養上の問題点・疾病について理解した上で、栄養ケアマネジメントの理論と方法を学ぶ。	加齢に伴う生理機能の変化を理解し、高齢者の栄養上の問題・疾病に即した栄養ケアマネジメントができるようになる。	○	○	○	◎	◎
スポーツ栄養学 X331-594-39	スポーツのパフォーマンスに貢献する栄養学と健康に役立つ栄養学を学ぶ。	健康とスポーツの競技力向上に必要な栄養学的知識を習得し、自分自身で「何を食べる・どのように食べるか」のアスリートの、健康的な食事管理ができるようになることを目標とする。	◎				
応用栄養学実習 X313-594-40	ライフステージ・ライフスタイル別に適応した栄養マネジメントを学ぶ。	ライフステージ・ライフスタイルにおける人体の構造、身体機能の変化に伴う栄養アセスメント(栄養状態に関連したパラメータの評価・判定)の考え方や方法に基づき、栄養摂取量、モニタリングなど栄養マネジメントの展開ができるようになる。	◎	◎			◎
栄養教育論 X111-594-41	栄養教育の意義と特性を理解し、栄養教育の方法を学ぶ。	栄養教育に関わる理論と教育方法を説明できる。	○	△	○	△	○
栄養教育各論 X311-594-42	ライフサイクル、ライフステージ別の栄養教育の方法を学ぶ。	対象別の栄養教育の実践のための理論と方法が説明できる。	○	△	○	○	○
栄養教育実習 X213-594-43	栄養教育技法として、栄養アセスメント、栄養教育計画、集団指導、個別指導の技術を習得する。	栄養教育の意義と特性を理解し、個人および集団を対象とした栄養教育を行うことができる。	○	◎	○	△	◎
栄養カウンセリング論 X231-594-44	栄養カウンセリングを体験実習することで、ガイダンス(指導)、コーチング、カウンセリング法の違いと効果をわきまえて、クライアントの状況に合わせた視点技術の展開と健康教育を学ぶ。	栄養カウンセリングの意義と特性、技法について理解し、説明できる。栄養カウンセリングの具体的な活用方法について説明できる。個人を対象とした栄養カウンセリングの基本について理解し、実践できる。グループカウンセリングの意義と特性、技法について理解し、説明できる。	○				
健康・栄養情報演習 X232-594-45	管理栄養士に必要な栄養情報処理技術を習得する。	特定集団の栄養・食生活データの集計・解析を行い、その課題解決のための方法を説明できる。	○	○	○	△	△

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
健康行動科学 X231-594-46	健康や病気をめぐる人間行動について行動科学的に学ぶ。	健康・栄養に関わる行動科学について理解し、説明できる。行動科学の具体的な活用方法を理解できる。行動変容を目的とした技法の基本について理解し、実践できる。問題解決をはかる技法について理解し、実践できる。	○	○			
臨床栄養学総論 X211-594-47	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理の基礎を理解する。	栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネージメントを考慮することができる。				◎	○
臨床栄養学各論 X211-594-48	栄養状態を的確に評価・判定し、それに見合った栄養補給方法を理解する。	データをもちいて、個人やある特定集団の栄養状態を総合的に評価・判定できる。				◎	○
分子栄養学 X331-594-49	近年の分子生物学の進歩は目覚ましく、栄養学においてもその知識取得は必須である。栄養素による細胞内シグナル伝達、遺伝子発現の制御に関する最新の知識を得る。	栄養素による細胞内シグナル伝達、遺伝子発現の制御のメカニズム、メタボリックシンドローム、フレイル発症への栄養素の関与について上記の知識を体系的に身につける。	◎	◎	○	◎	◎
栄養アセスメント論 X331-594-50	栄養状態を的確に評価・判定し、効果的な栄養補給を理解する。	「個」を対象に栄養管理計画を立て、それについて説明できる。				◎	◎
栄養ケアマネジメント論 X331-594-51	対象者の臨床診査、臨床検査、身体計測、食事摂取調査、環境要因などにより総合的に栄養状態を評価・判定し、問題点の背景・関連要因について考察し栄養ケア計画を立案・実施することについて学ぶ。	栄養ケアマネジメントのプラン作成ができるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
臨床栄養学実習 X313-594-52	栄養アセスメントの指標を理解し疾患別に適した栄養量を策定し、献立作成・調理を行う。	栄養療法のプラン作成ができるようになる。	◎	◎	○	◎	◎
臨床栄養管理実験 X333-594-53	正しい測定法、測定値の意味および病態との関係を理解する。	正しい計測・検査ができる。				◎	○
介護概論演習 X431-262-54	「高齢者」に焦点をあて、身体的、精神的、社会的側面から加齢に伴う変化、高齢者に対する制度政策について学ぶ。	社会保障制度としての「介護保険法」の理念並びに仕組みを学び、高齢者サービス提供についての現状と課題を理解する。	○				
口腔機能論演習 X331-578-55	口腔の機能、疾患について理解し、管理栄養士としての治療における役割を学ぶ。	口腔各部の構造、機能、疾患、予防・治療法について知り、説明できるようになる。咀嚼、摂食・嚥下と関係のある、種々の口腔機能について知り、説明できるようになる。	◎				
運動療法論 X331-592-56	健康づくりについて、栄養面からだけでなく運動面からも学ぶ。	健康づくりと運動の関係性について学び運動に関する知識を理解し、様々な視点から健康づくりを捉えることのできる論理的思考力を修得する。	○				
公衆栄養学 X211-594-57	公衆栄養学の概念とその重要性を理解する。	歴史上の栄養疫学の業績、わが国の栄養政策・活動を説明でき、栄養疫学の指標と方法を論じることができる。現在の健康・栄養問題、関連要因の分析ができ、公衆栄養学の概念を説明できる。	◎	◎	◎	○	○
公衆栄養活動論 X331-594-58	公衆栄養政策への理解および公衆栄養活動を効果的に進めるための方法とスキルを習得する。	公衆栄養活動は、生態系保全・地域づくり・健康増進・疾病予防等多様な目的を持つ地域社会の組織的な努力を通じて行われる活動であることを理解でき、オーガナイザーとして必要な能力を身につける。	○	○	◎	◎	◎
環境健康医学 X331-583-59	自然環境や社会環境が健康に及ぼす影響を知り、適切な対処について学ぶ。	環境汚染や公害などの社会環境と健康との関係や影響について理解し、ヘルスプランを考察することができるようになる。	○		◎		

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
公衆栄養学実習 X433-594-60	公衆栄養学および公衆栄養活動論で学んだヘルスプロモーションの理論(プリシード・プロシード)を活用し、地域で健康・栄養改善を進めるプログラムを計画・実践・評価する。	グループ討議、地域栄養計画立案に必要な情報収集、優先的な課題の把握・診断ができる。課題解決のための効果的なプログラムの計画ができ、運営実施・評価ができる。	◎	◎	◎	◎	◎
食事調査演習 X232-594-61	各種食事調査法の理解と秤量食事記録法による他者の3日間食事調査を体験する。栄養素量の計算後は応用栄養学で学んだスキルの実践。	食事調査法の特徴が説明でき、食事内容の面接聞き取り(コミュニケーション)・栄養素等摂取量の算出スキルを身につける。その後は応用栄養学で身につけた能力を実践し適切な栄養指導へと応用できる。	○	○	△	○	○
給食経営管理論 X211-594-62	給食施設における管理栄養士の役割を理解し、給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行うための基本的な考え方とその具体的な方法について学ぶ。	特定給食施設の運営に必要な制度、栄養管理・衛生管理に必要な知識を理解し説明できるようになる。	○	◎	◎		
給食経営管理基礎実習 X313-594-63	150食分の献立作成から発注・大量調理・検査・残食調査による評価にいたる一連を体験し、給食運営に関する方法、技術等を習得することを目的とする。	それぞれの役割を体験することにより給食経営管理の全体を理解する。	○	○			
給食経営管理応用実習 X313-594-64	大量調理の作業管理までを体験し理解する。HACCPの概念にそった衛生管理の実践を実践する。喫食者に対するアンケートの作成ならびに集計・解析を行い、調査結果を判読する能力を習得する。	管理栄養士が各職種、各作業領域に対してどのような役割を担っているか理解する。	○	○			
フードマーケティング論 X331-411-65	フードマーケティングの専門的知識を習得する。	マーケティングの歴史的考察やその役割を理解し、マーケティングの展開についてその企業戦略と競争の観点から検討できるようになる。			○		
フードサービス論 X231-594-66	フードサービスについて多角的な視点から捉えることができる専門的知識の習得。	外食産業におけるフードサービスについて説明できるようになる。			○		
健康栄養科学入門 X131-841-67	健康栄養学科で学ぶ専門分野の基礎的知識と学習方法について理解する。	専門分野を横断し、個人や集団を対象とした栄養評価および管理が行える総合的な能力を養うことを目指す。	○			○	
健康管理総合演習 X432-841-68	最近増加しつつあるメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、高脂血症など生活習慣病の基礎治療である食事療法・運動療法について本学歯学部付属病院外来患者を対象とし、問診や検査結果に基づき、管理栄養士として食事療法・運動療法指導の臨床栄養管理演習を行う。これまでの学習から、患者に寄り添い患者から学ぶ能動的な自立した学習を通して、管理栄養士としてのコミュニケーション技術、栄養指導・臨床栄養管理技術を養う。	①管理栄養士として、患者とのラ・ボアラを築くことができる。②糖尿病等患者に対する個別指導ができる。③患者・医師・チーム間で良好なコミュニケーションが構築できる。④最新の高いエビデンスのある情報が収集でき、活用できる。	○	○	○	◎	○
管理栄養士総合基礎演習 X432-841-69	チーム医療の一員となりうる臨床志向の管理栄養士養成を目指して総合的な演習を行う。それぞれの領域を横断して栄養評価や管理を行う能力を養うために必要とされる基礎的な知識と技能について、演習を通して系統的に学ぶ。	管理栄養士として必要な知識と技術を系統的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○
管理栄養士総合応用・臨床演習 X432-842-70	専門分野で学習した内容を統括して、病院、福祉、介護、産業、学校、地域保険などの職種で栄養アセスメント、栄養ケアマネジメント、栄養教育を行うことができる実践力を養うための演習をオムニバス形式で行い、専門分野を横断した総合的な能力を高めることを目的とする。	管理栄養士として必要な応用・臨床の知識と技術を総合的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し実践できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを実践できる
臨地実習事前事後演習 X312-842-71	臨地実習の意義を理解し、学習効果の高い学外実習を行うために、栄養士・管理栄養士の業務について、事業所給食施設、病院、福祉施設などの施設別の実習準備と事後教育を実施する。	栄養士・管理栄養士の社会的な役割として自覚できるようにし、職務の体験を通して、専門的業務内容を総合的に理解し、説明できるようにする。	○	○	○	○	○
臨地実習Ⅰ(校外実習を含む) X313-851-72	栄養士・管理栄養士免許取得に必要な臨地実習として、集団給食施設において、給食経営管理および栄養改善上必要な指導に関する実務実習を行う。	集団給食施設における栄養士・管理栄養士の意義と業務について、専門知識の説明と実践ができるようになる。	○	◎	◎	○	○
臨地実習Ⅱ X333-851-73	管理栄養士免許取得に必要な臨地実習として、医療・福祉施設において2週間の栄養ケアマネジメントに関する実習を行う。	医療・福祉施設における実務実習を通して、栄養ケアマネジメントの実践について説明し、実践できる。	○	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅲ X333-851-85	臨地実習は、学内の講義・実習で修得した成果を、社会で応用する実践トレーニングの第一歩である。臨床栄養学の臨地実習では、病院、介護老人保健施設で実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を修得することを目的として1週間の実習を行う。	臨地実習Ⅱをさらに深めた内容で臨床栄養に必要な知識・技術・資質、管理栄養士の責務としてそれらの必要性がより理解できる。管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識及び技術の活用について説明できる。管理栄養士の職務を体験し、社会的な役割および責任に関して、説明できる。臨地実習施設および学内実習担当者、グループの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。管理栄養士として実習目的を理解し、適切な業務判断ができる。管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点を導き出すことができる。	○	◎	◎	◎	◎
臨地実習Ⅳ X333-851-86	給食経営管理論の臨地実習では、事業所・社会福祉施設等の集団給食施設において、実際の業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的として1週間の実習を行う。	給食経営管理に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。管理栄養士業務を体験する中で、修得した知識及び技術の活用について説明できる。管理栄養士の職務を体験し、社会的な責任に関して、説明できる。臨地実習施設および学内実習担当者、グループの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。管理栄養士として実習目的を理解し、適切な業務判断ができる。管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点を導き出すことができる。	○	◎	◎	○	◎
臨地実習Ⅴ X333-851-87	臨地実習は、学内の公衆栄養学、公衆衛生学、栄養教育論、ライフステージの栄養学等の講義・実習で修得した成果を、社会で活かす実践的トレーニングの第一歩である。この実習では保健所、保健センターで、実際に業務を体験し、管理栄養士としての技術を体得することを目的として1週間の実習を行う。	公衆栄養活動に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士としての責務としてそれらの必要性が理解できる。地域社会の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析を行うことができるようになる。臨地実習施設および学内実習担当者、グループの報告・連絡・相談事項を類別し、状況に応じた対応ができる。管理栄養士として実習目的を理解し、適切な業務判断ができる。管理栄養士の職務に基づいて、自らの課題やその改善点を導き出すことができる。	○	◎	◎	◎	◎
健康栄養学特論 X431-842-74	学生各自が修得してきた専門基礎分野および専門応用分野の学問を進路に併せてさらに発展させ、学士力を高めることを目的として、専門分野別に最先端の知識と技術について総まとめを行う。	健康と栄養に関する基礎から応用に至る科学的総まとめを行う。	◎	◎	◎	○	○

健康科学部健康栄養学科 カリキュラムマップ			健康科学部健康栄養学科のディプロマポリシー (DP)				
授業科目名 科目ナンバー	授業の概要	授業の到達目標	X-DP1	X-DP2	X-DP3	X-DP4	X-DP5
			①栄養・食生活と健康との相互関係に関する知識を身につけている	②栄養・食品・調理に関する知識・技術を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を實踐できる	③環境づくり(食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など)の必要性を理解し、實踐できる	④疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法の科学的根拠に基づき説明できる	⑤栄養ケアマネジメントを實踐できる
管理栄養士海外研修 X233-852-75	国際的視野をもつ管理栄養士を育成するために、海外の大学にてRD (registered dietitian)による講義、病院・福祉・学校・集団給食施設の見学を通して研修を行う。	グローバルな視点で栄養・食生活の問題を捉えて思考し、英語でのコミュニケーションの幅が広がるようになる。	○	○	○		
心身科学特論 X331-594-77	心身科学部2学科の教員が、それぞれの専門の立場から、学生にとって有用な知識や最新の研究成果をわかりやすく紹介する。	「心」、「身体」、「食」と健康との関連を理解し、これらの視点から、人間の思考や行動を考え、心身の健康の重要性を説明できる。	○	○	△	○	
健康栄養総合演習 X312-842-78	各ゼミナールにおいて、各分野にかかわる調査・研究の方法について学ぶ。	検索した論文を読み、内容を説明することができ、論文作成に至るまでのプロセスを説明することができる。	○	○	○	◎	○
健康栄養専門セミナー X411-842-79	各ゼミナールにおいて、健康栄養総合演習で学習した内容の理解をさらに深め、より実践に基づいた方法を学ぶ。	検索した論文を読み、内容を説明することができ、論文作成に至るまでのプロセスを説明することができる。内容を理解し、判定・評価を適切に行うことができる。	○	○	○	◎	○
卒業研究 X336-845-76	各ゼミナールで設定したテーマに基づき、調査や実験を行い、卒業論文としてまとめ、成果を発表する。	講義や実験・実習で学んだ知識、技術を活かして適切に評価し、論理的にまとめることができる。	○	○	○	◎	
有機化学 X131-471-80	私たちの健康を食生活から考える専門家としての有機化学の基礎から応用までの修得。	栄養学、食品学、生化学の基礎としての有機化学を健康と栄養の面から理解させる。生活を科学的に分析し、より快適な食生活を送るにはどのような改善が必要かを認識できるようになる。	○	○	△		
分析化学 X131-772-81	私たちの健康を食生活の面から支える専門家としての食品成分分析に必要な知識を基礎から応用まで習得。	食品分析に必要な基礎的の化学知識や分析化学の原理と方法、物質や数値の取り扱いなどについて学び、学習した化学的知識や分析化学の基礎を食品化学や栄養学に応用できるようになる。	○	○	△		
管理栄養士セミナー X331-842-83	管理栄養士としての専門分野を結合して活用できる能力を育成するために、セミナー形式で学ぶ。	管理栄養士として必要な知識と技術を分野横断的に学ぶ。	◎	◎	◎	○	○

◎・・・DP達成のために、特に重要な事項

○・・・DP達成のために、重要な事項

△・・・DP達成のために、望ましい事項